

Architecture in Time 2

「強い構造」を再利用し、「弱い構造」で新たな空間を創造する

西洋建築史系スタジオ課題

本スタジオ « Architecture in Time »は、西洋建築史の研究をベースとして、それを「知の技術」として、設計に展開させることを狙いとしている。

「時間のなかの建築」として着目するのは、建築の「転生」だ。建築はひとつの「作品」として完成した後も長い時間生き続ける。社会状況が建設当初から大きく変化したとき、新たな社会の要請にあわせて建築を変貌させることも、重要な建築行為である。

西洋の古い建築を調査すると、そうした「転生」にひとつの傾向が見えてくる。「強い構造」ともいえる城壁や巨大建造物などが当初の役割を失ったとき、それは再利用可能な構造体と化すのである。そこには住宅のような「弱い構造」が付着して、そこに新たな建築や街並みが生まれる。

本スタジオ課題では、こうした事例研究に基づき、現代の日本で再利用可能な「強い構造」を発見し、そこに「弱い構造」で軽やかに寄生するようにして、新しい建築空間を生み出そうとするものである。

※なお最終成果物を、2016年度日本建築学会設計競技「課題:残余空間に発見する建築」（締切6月24日）に応募することも、あわせて推奨する。

スタジオの進め方：

前半（中間講評まで）

- ▶ヨーロッパの歴史的な事例研究
- ▶日本国内での敷地選定+設計案

後半（中間講評以降）

- ▶設計をすすめる

スタジオ初回ガイダンス：

4月14日（木）14:00から加藤研（306）にて

エスキス：

毎週火曜日14:00から加藤研（306）にて
木曜に特別レクチャーを開催する場合がある

履修条件：

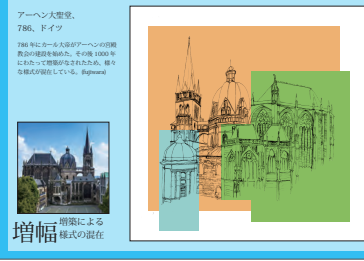
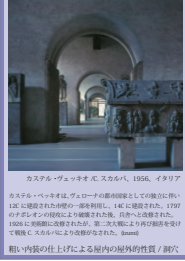
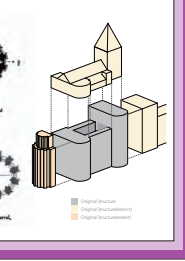
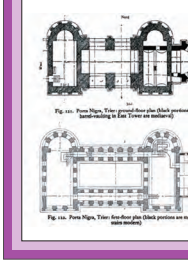
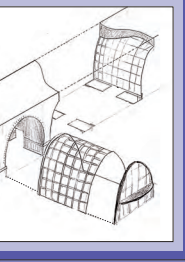
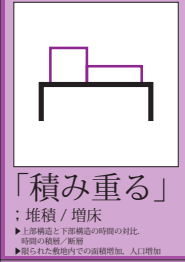
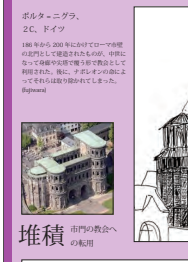
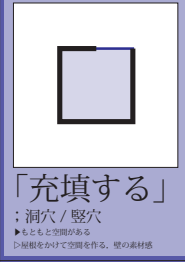
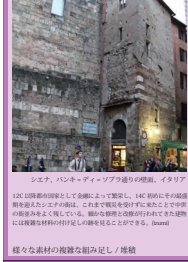
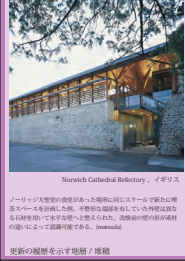
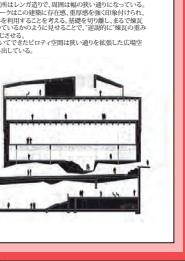
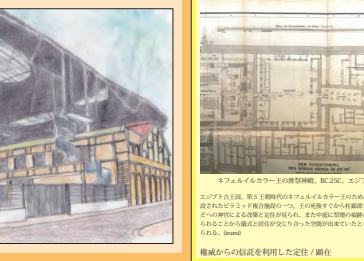
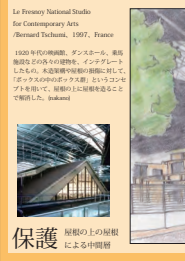
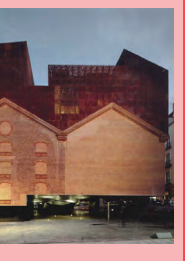
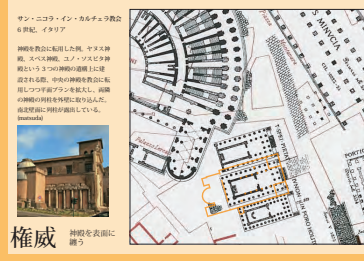
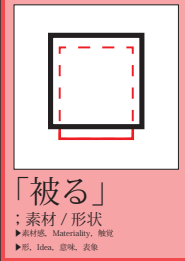
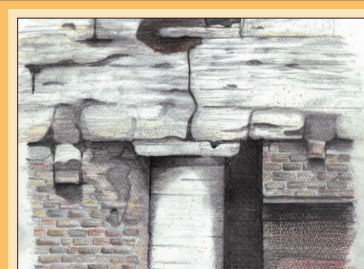
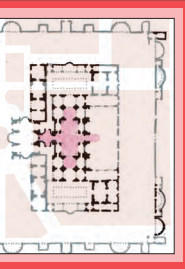
学部生のみ

指導メンバー：

加藤耕一+泉勇佑（TA）+小見山陽介
構造アドバイザー：杉本訓祥（横浜国大准教授）



城壁に寄生する住宅群（フランス）



リサーチ説明文／建築の時間変化の多様性と多義性

泉勇佑 (TA／加藤耕一研究室修士2年)

建築の時間変化にどのように介入できるのかを考えるにあたって、本リサーチでは既往の2つのリサーチに着目した。1つ目は長谷川豪氏のスイス・メンドリシオ建築アカデミーのスタジオにおけるリサーチであり、2つ目は都市連鎖研究体と環境ノイズチームの先行デザイン論におけるリサーチである。長谷川氏のリサーチは、古代から現代までの西洋の代表的な建築をカードにし、それらの建築の参照関係を分析しながら学生と共にボード上に再配置していくというものである。この分析方法は、単に歴史的建築物を編年するのではなく参照という「関係性」の中に再配置することで、様式や分類による分析とは異なる歴史的建築物の側面を洗い出すことに成功している。リサーチの内容と西洋建築史を再解釈しようとする試みの意図は、長谷川豪氏のヨーロッパの現代建築家へのインタビュー集である『カンヴァセッションズ』¹に詳しい。2つ目に挙げた2004に『10+1』上で発表された先行デザイン論²におけるリサーチは、都市に残され潜在する〈先行物〉の作り出す多様性を分析、評価したものである。この分析は都市に残り続けてしまう「モノ」に着目することで、都市および都市の「時間変化」を内包したデザインを提案するための基盤を作り出すことを試みている。

本リサーチは、都市に残り続けてしまう「モノ」とその「時間変化」を、「強い構造」とそれに対する「弱い構造」の付加という側面から

捉えることで、建築の視点からその多様性を分析、評価し、デザインを提案する基盤となることを意図している。リサーチは、スタジオを履修した学部生とともに集めた西洋を中心とした100の事例をカードにし、個々の事例の相違や類似の分析（微視的な分析）と大きな枠組みづくり（巨視的な分析）を繰り返すことで、それぞれの主題の「関係性」、特にそれぞれの主題の根底にある性質の「関係性」を分析している。

分析の大枠は「弱い構造」を主語とする形で、「被る」「取り込む」「分割する」「寄生する」「群がる」「積み重なる」「充填する」「あふれ出る」「つなぐ」という9つの主題から構成されている。各動詞にはそれぞれ、

「被る」；素材／形状

「取り込む」；権威／保護

「分割する」；潜在／顕在

「寄生する」；付着／共生

「群がる」；仮設

「積み重なる」；堆積／増床

「充填する」；洞穴／堅穴

「あふれ出る」；増殖／増幅

「つなぐ」；誘導／自助／協力

というそれぞれの主題の根底にある性質を表

¹ 長谷川豪『カンヴァセッションズ—ヨーロッパ建築家と考える現在と歴史』LIXIL 出版、2015

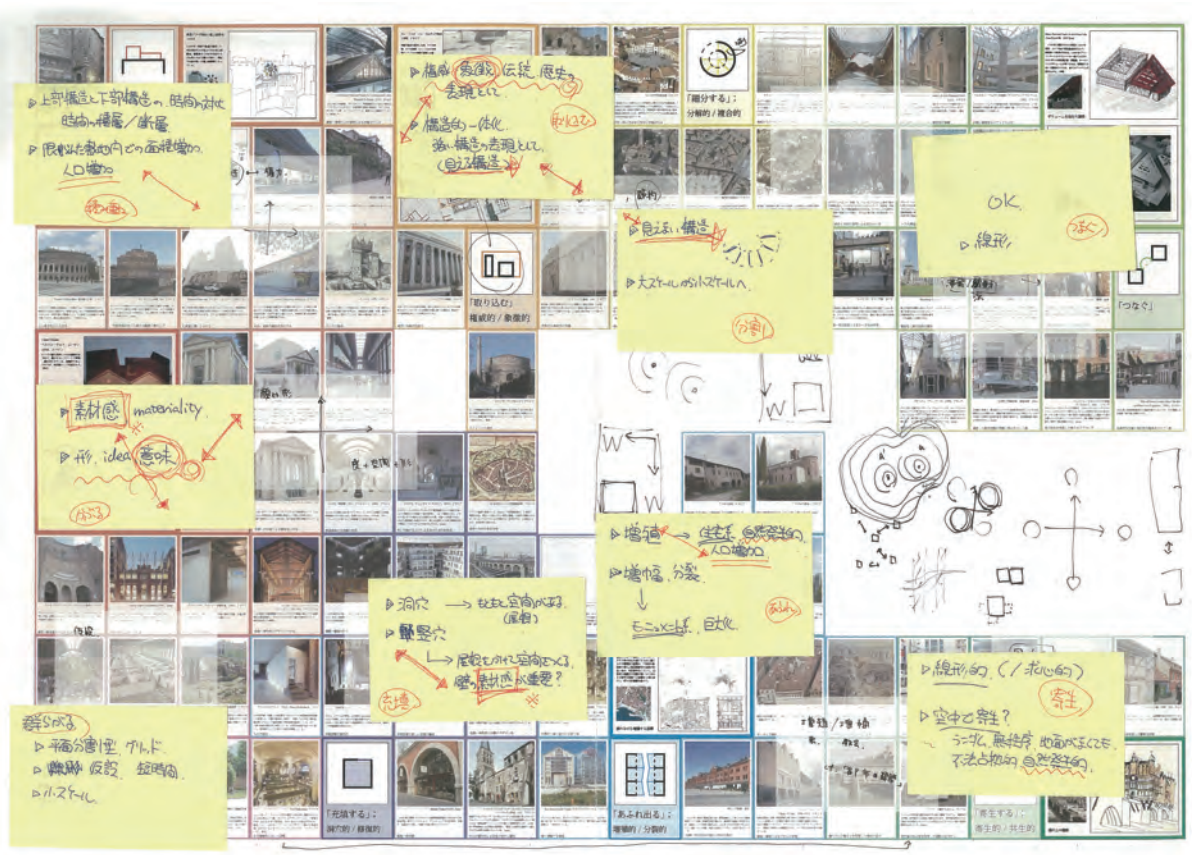
² 「特集=先行デザイン宣言 都市のかたち／生成の手法」、『10+1』、No.37、INAX 出版、2004

すキーワードが割り当てられている。

すでに述べられたように、この分析は個々の事例を「分類」することではなく、「関係性」を明らかにすることに重点が置かれている。よって動詞によって括られたグループの周縁に位置する事例は隣接する異なるグループと重複する性格を帯びており、このリサーチで提示

される主題は必ずしも他の主題と対立関係となっているとは限らない。

このリサーチは、単に「強い構造」に介入する手法を提供することではなく、介入に際して選択される主題をより多角的に解釈するための視野を提供することを意図している。



リサーチの過程



オランジュリー美術館 (改修)、2006、フランス

1852年建設の美術館。2006年の改修では、外壁に大きなガラスの開口部を設け、屋根もガラスに変更し、外観の重厚さは対照的に自然光を大膽に取り込んだ建物に生まれ変わった。(matsuda)

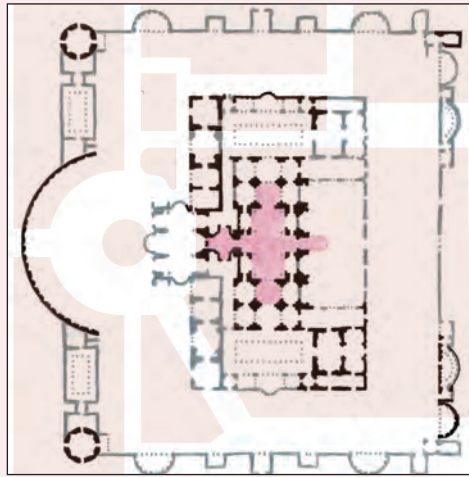
内部を刷新し、外観を継承する / 形式

サンタ=マリア=デッリ=アンジェリ教会
1565、イタリア

306年、ディオクレティアヌス帝により建設された公衆浴場の跡にミケランジェロが設計。複数ある浴室のうち、テピダリウムが翼廊、フリギダリウムが身廊、カルダリウムの一部が入り口として使われており、構造はそのまま。(shintani)



形式 十字空間の再利用



カルロ・フェリーチェ劇場 / アルド・ロッシ、イタリア

19世紀に建設されたジェノヴァの劇場。戦災の被害にあったのち、1983年にアルド・ロッシが改修した。もとの外観を復元する一方でインテリアを一新した。ロッシが劇場が街のシンボルとして保たれるために外観の復元を重視した。(matsuda)

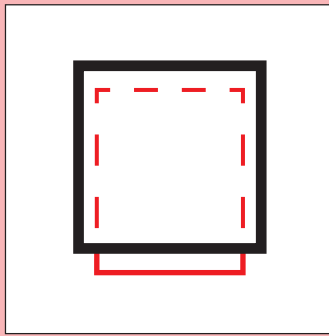
街のシンボルの再建 / 形式



テートモダン / ヘルツォーク&ド・ムーロン、イギリス

1963年に完成した発電所が1981年に閉鎖し、1993年には建物の一部取り壊しが始まるが、1994年にテート・ブリテンが再利用を発表。発電機があった巨大なタービンホールを七階吹き抜けの大エントランスホールにし、構造は鉄骨を残したままである。(shintani)

再利用によってこそ生み出せる大空間 / 形式



「被る」
; 素材 / 形状

- ▶ 素材感, Materiality, 触覚
- ▶ 形, Idea, 意味, 表象



ギャラリー・ジュ・ド・アントワヌ・スタンコ
フランス

1861年テニスの原型のスポーツのための球戯場をつくり、これを1991年歴史性と現代建築の融合という試みで改築された。立面の保存をしつつ、内部は白一色の完全な現代建築になっている。(nakano)

立面の保存と現代の空間の共存 / 形式



ルーヴェン美術館 / Stephane Beel
2009、ドイツ

旧大学施設とそれに隣接する住戸を転用し、新築棟を連結することによってラウンジや教育プログラムを設けた地域の文化継承の場を作り出した。旧大学施設は内部をホワイトキューブ化し増築部との調和を図る一方、パティメントを持つ外壁を保存修復することでゲートとして利用し増築部との対比も表現している。(nakatsuka)

既存外壁と新築部との対比 / 形式

Caixa Forum/
ヘルツォーク&ド・ムーロン
2008、スペイン

レンガの壁を保持したまま基礎を抜き取り、裏からコンクリートで補強、壁を浮かせている。変電所であったものが、美術館として改装された。(shintani)



素材 煉瓦壁の質感を
活かしたデザイン



Antoni Tàpies Foundation / 1990、Spain

1879年に設計された建物を改修したもの。美術館的役割から、その採光に大きく焦点があてられ、直射光を回避するために、吹き抜けのガラス屋根は北向きのハイサイドライトに変換されるなどの工夫。(nakano)

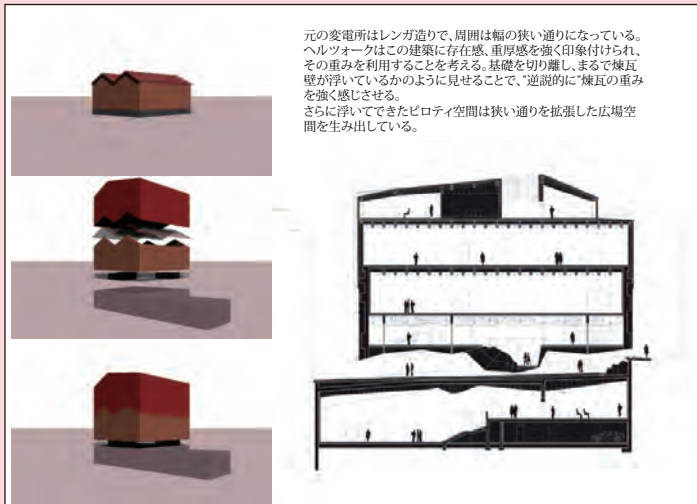
外壁保存しつつ採光の変更 / 形式



アウレリアヌス城壁 / イタリア

皇帝アウレリアヌスが異民族の侵攻への対策として271年から275年という短期間で建設した城壁。工期短縮、資金削減のために城壁は既存の建築物を取り込むようにして建てられた。(matsuda)

遺構を盾に利用した城壁 / 権威



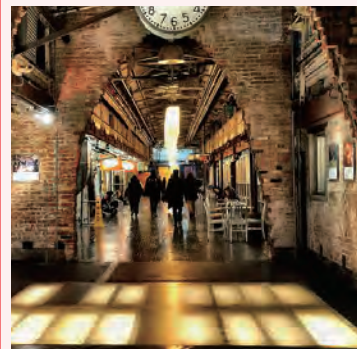
元の変電所はレンガ造りで、周囲は幅の狭い通りになっている。ヘルツォークはこの建築に存在感、重厚感を強く印象付けられ、その重みを利用することを考える。基礎を切り離し、まるで煉瓦壁が浮いているかのように見せることで、「逆説的に」煉瓦の重みを強く感じさせる。さらに浮いてきたピロティ空間は狭い通りを拡張した広場空間を生み出している。



ニッポン・パヴィーニ・オーデトリウム
レンゾ・ピアノ、1997-2001、イタリア

バルマにある19世紀の工業建築群の中のエリアダニア精糖工場エリアに設計。妻側の壁を排除し、代わりに大きなガラス壁と交換することで、透明性を持った建築に。(nakano)

ガラスによるデザイン性の付与 / 素材



チェルシーマーケット、アメリカ

1890年に建設されたナビスコの工場を中心とした施設が店舗やオフィスに転用されたもので、レンガ構造などがそのまま利用され、正面には既存外壁の上から金属とガラスの庇がつけられている。(nakano)

レンガ造りを利用したマーケットの発生 / 素材



ロトンダ (テッサロニキ)、ギリシア

ローマ帝国東方正帝ガレリウスの霊廟となる予定で306年が彼が別の場所に埋葬されたため、その後はキリスト教会に転換された。オスマン帝国支配下の時代にはミナレットが追加され、モスクとして利用された。(fujiwara)

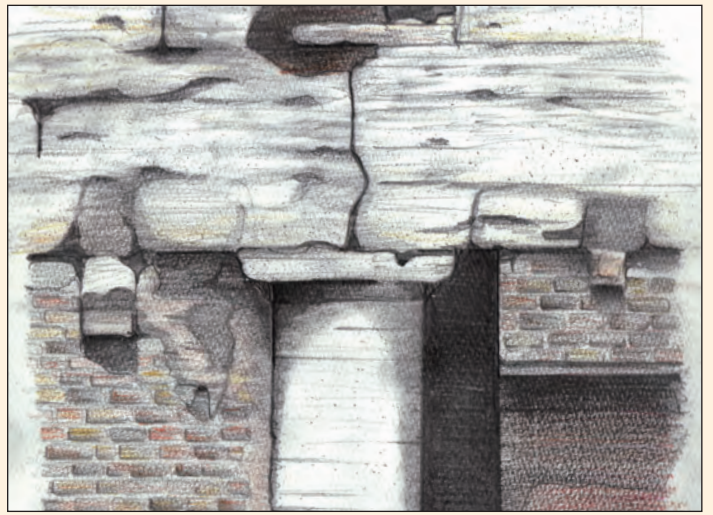
ミナレットの追加 / 形式



シラクエザ大聖堂、640、イタリア

紀元前5世紀に建設されたアテナ神殿を7世紀に教会へと改修。既存の柱が内外から見えるようにして壁体に埋め込まれている。9世紀にモスクに改修された後、11世紀に再び教会へと改修されている。(izumi)

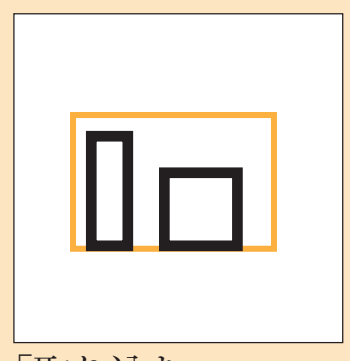
宗教的な権威性の移譲 / 権威



ハドリアヌス神殿 / イタリア

皇帝ハドリアヌスを祀る神殿。教皇の要求によりイタリアの建築家カルロ・フォンターナが神殿の内側に築いた建物は、現在ローマの証券取引所として利用されている。(matsuda)

広場に向けたファサードのみ残す / 権威



「取り込む」
；権威 / 保護

- ▶ 構造的一体化による強い構造の表現
- ▶ 権威、象徴、伝統、歴史の表現

サン・ニコラ・イン・カルチュラ教会
6世紀、イタリア

神殿を教会に転用した例。ヤヌス神殿、スベス神殿、ユノ・ソスピタ神殿という3つの神殿の遺構上に建設される際、中央の神殿を教会に転用しつつ平面プランを拡大し、両隣の神殿の列柱を外壁に取り込んだ。南北壁面に列柱が露出している。(matsuda)



権威 神殿を表面に纏う



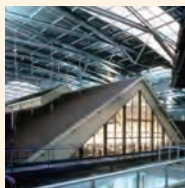
兵馬俑坑、BC3C、中国

兵馬俑坑は、紀元前210年に崩壊した秦の始皇帝の陵の一部である。規模は2万㎡に及び、始皇帝の直轄の軍隊を模した8000体を超える兵馬俑は、秦が征服した国々を見張るようすべて東を向いている。1974年に発見され、現在は博物館になっている。(izumi)

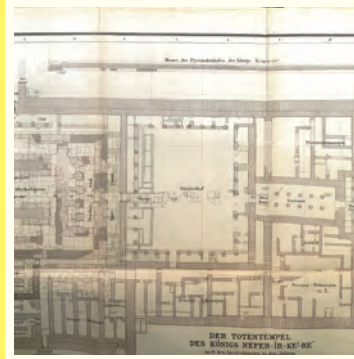
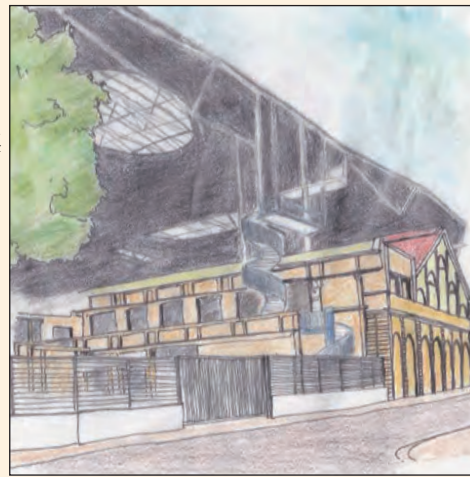
巨大な墳墓跡を覆うドーム / 保護

Le Fresnoy National Studio
for Contemporary Arts
/ Bernard Tschumi, 1997, France

1920年代の映画館、ダンスホール、乗馬施設などの名々の建物を、インテグレートしたもの。木造架構や屋根の損傷に対して、「ボックスの中のボックス群」というコンセプトを用いて、屋根の上に屋根を造ることで解消した。(nakano)



保護 屋根の上の屋根による中間層



ネフェルイホルカー王の葬祭神殿、BC25C、エジプト

エジプト古王国、第5王朝時代のネフェルイホルカー王のために建設されたピラミッド複合施設の一つ。王の死後すぐから柱廊部分などへの神宮による改築と定住が見られ、また中庭に祭壇の痕跡が見られることから儀式と居住が交じり合った空間が出来ていたと考えられる。(izumi)

権威からの信託を利用した定住 / 顕在



Stone House Transformation in Scaiano / Wespil de Meuron
スイス

スイスの伝統住居を再利用し、現代的な住居に転換利用した。石壁の裏側にコンクリートを打ち、補強している。(shintani)

伝統住居の石壁の質感 / 壁穴



Lyon Opera House
/ Jean Nouvel, 1993, France

1756年にスフロによって建てられた劇場を改修。外壁のみを残し、地下を四層分掘り、半円ヴォールトを上に乗せている。内装は黒一色で統一され、光とのコントラストを意識している。(nakano)

半円ヴォールトの設置 / 壁穴



クロウヴィス通りのフィリップ=オーギュストの城壁、1190、フランス

1190年フィリップ=オーギュストは白を完成させた。これは武器庫として使用され、リセ・シャルルマーニュ高校には見張り塔と城壁のこっている。また、町における緩い坂や車道より一段低い道路はパリを囲む城壁における掘の残骸だといわれている。(nakano)

歴史的痕跡 / 顕在



テルニの司教館と大聖堂 / イタリア

かつてのテルニの円形闘技場の跡地に建つ司教館と大聖堂。闘技場の外壁の一部を取り込むようにして建つ。アリーナ内部はこれらの建物の底となっている。(matsuda)

見えない構造を取り込む / 顕在



ドミティアヌス競技場、イタリア

AD86年に第11代ローマ皇帝ドミティアヌスにより開設。帝国末期には観客席部分には貧民が住み着き、中央は集会所として利用された。現在はフィールド部分がナヴォーナ広場となっている。(fujiwara)

競技場の平面計画の継承 / 潜在



S. クローチェ広場前の楕円形平面街区 / イタリア

円形闘技場の遺構が住居化して街に完全に取込まれる過程で、かつての遺構部分を街路が横切り、楕円形の街区が形成された例。(matsuda)

街に組み込まれ切り刻まれた遺構 / 潜在

ルッカの円形闘技場 / 不明、1Cへ、イタリア

1世紀末のローマ時代にルッカの市壁外に建てられた円形闘技場。6世紀から8世紀にかけては要塞としても使用され、10世紀から人口増加に伴い住居化が進行した。用途転用や部材解体を経て闘技場自体は姿を失ったが、楕円形のアンフィテアトロ広場は闘技場の面影を現在に伝えている。(tabata)



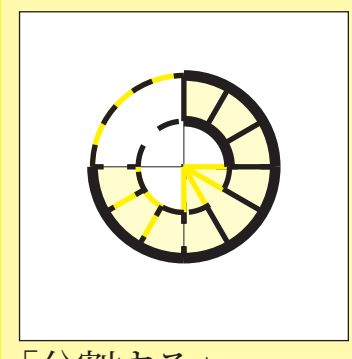
潜在 構造を隠し持ち形を引き継ぐ



ベルガ劇場、BC1C、イタリア

紀元前1世紀後半に建てられた劇場。13世紀からは牢獄と利用されたがやがて建物は崩壊。18世紀からは住宅が建てられたが、当初の劇場の壁面が利用されている。(fujiwara)

劇場の住居化 / 潜在



「分割する」；潜在 / 顕在

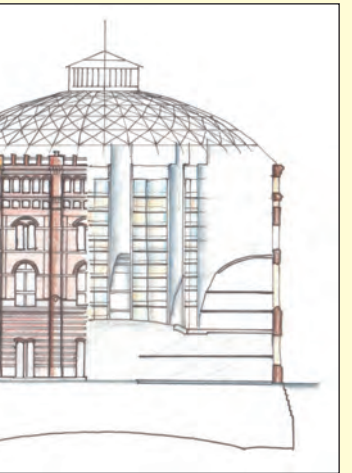
- ▶見えない構造
- ▶大スケールから小スケールへ、分解

かつてのクネオを1単位としてスキエラ型住宅が立ち並ぶ様子がわかる。観客席と傾斜ヴォールトは取り壊され、壁を立ち上げている。

Gasometer / ジャンヌーヴェルほか 2001、オーストリア

1984年に廃炉となった円筒状のガスタンクを利用して内部に住宅を建設した例。2001年から住宅として利用されている。(matsuda)

顕在 生々しく残る遺構を分割する住戸群



ブラハ城黄金小路、16C、チェコ

名の由来は時の皇帝ルドルフ二世が錬金術師を住ませたこととされているが実際は城の使用人を住ませた。後に人が無断で住み着くようになる。

要塞壁を利用した簡素な民家 / 附着

旧ロンドン橋、1209、イギリス

旧ロンドン橋はヘンリー2世の治世中に工事が依頼され、1176年から33年の歳月をかけて建設された。その後、欄干を付した7階建ての高さに至る建築物が橋に沿って建設された。橋は1830年代初頭に取り壊された。(fujiwara)

附着 せり出して橋に寄生する

ボルゴ・ディ・オステア、イタリア

古代都市オステアに水を供給していた水道橋は、オステア市壁上部へと接続していたが、水道橋の一部のアーチが埋め立てられ市壁に取り込まれた。S.アウレア聖堂の横に建つ司教館の裏手の壁面には、水道橋の半円アーチ3つと水路の断面が明瞭に確認される。(nakatsuka)

アーチの埋め立て / 顕在

アムステルダム旧教会、1578、オランダ

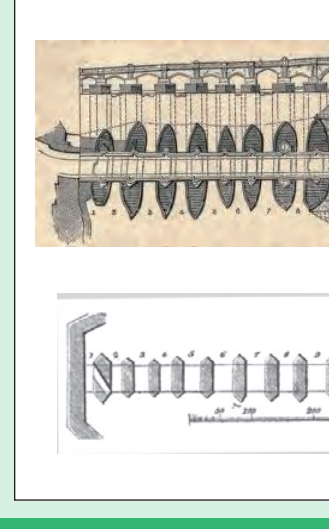
アムステルダムの旧教会の壁面につくってカフェが建っている。(tabata)

教会外壁に寄生するように建つカフェ / 共生

「寄生する」；附着 / 共生

▷線形的 / 求心的、土木 / 建築、地 / 図

▷経済性、不法占拠的、ランダム、自然発生





古代末期のトゥールの円型闘技場、フランス

フランス中西部の都市トゥール (Tours) の円型闘技場は1世紀に建設され、盛土を石で覆う構造をしていた。3世紀末に砦、4世紀に要塞となり、9世紀以降は教会の住宅の基礎として使われた。(izumi)

盛土と石の組積造の下部構造化 / 潜在



テンペルホーフ空港、1923、ドイツ

かつてナチス・ドイツ (Nazi) の野心の象徴とされ、後に冷戦時代の象徴となったベルリンの旧テンペルホーフ空港は2008年に閉鎖されてしまった。しかし現在、テントやパーテーションを設置することで数百人もの難民の一時収容施設に姿を変えている。(fujiwara)

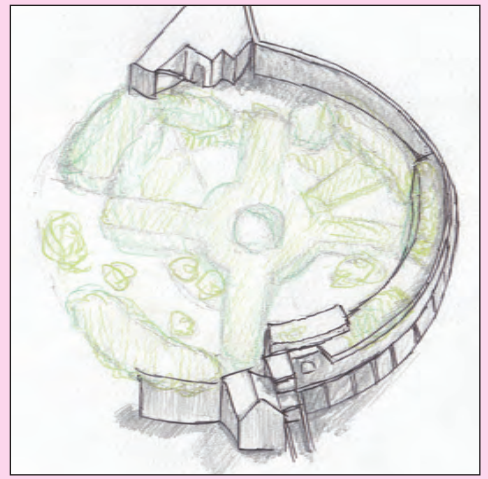
一時避難施設としての利用 / 仮設

カストレンセ円形闘技場 / イタリア

カストレンセ円形闘技場はローマに位置するコロッセオに次ぐ2番目に古い円形闘技場で、3世紀前半にセウェルス朝の皇帝のヴィアの施設の一つとして建設された。3世紀末にアウレリアヌス城壁に取り込まれ、現在は内部が隣接するサンタ・クローチェ=イン=ジェンサレンヌ聖堂の菜園として利用されている。(nakatsuka)



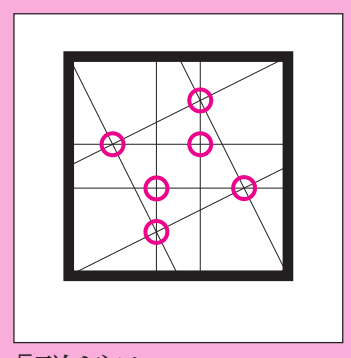
仮設 内部に群がる 菜園



トラヤヌスの市場横の回廊、イタリア

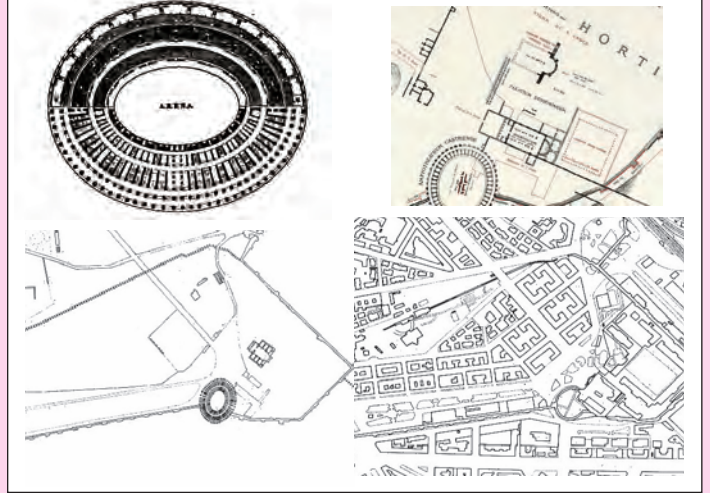
トラヤヌスの市場は紀元100年から110年、トラヤヌス帝に在った建築家ガマスカスのアポロドーロスが建設した。2000年の歴史の中で、要塞、兵舎、修道院など役割を変えつつ改築が繰り返されてきた。(fujiwara)

空隙の利用 / 仮設



「群がる」 ; 仮設

▷平面分割, 短期間, 小スケール, 漂泊的



Food Emporium、アメリカ

ニューヨークのクイーンズボロ橋が1909年に建設され、1914年にオープンエアマーケットとして高架下が用いられるも衰退。1999年より再開発が行われ、現在クイーンズボロブリッジプラザとしてマーケット、テニスクラブ、パーティスペース等、様々な用途で用いられている。(shintani)

必要以上の大空間 / 仮設



Puerta de Atocha / ラファエル モネオ、1992、スペイン

セビリヤ万博開催に伴いAVEが開通。駅舎を改修した際、旧駅舎のプラトホームは植物園風の待合スペースとして生まれ変わった。(tabata)

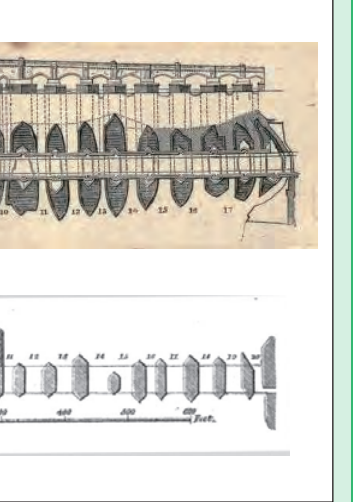
西洋近代特有のS造駅舎のコンバージョン / 仮設



ロアン邸、1742、フランス

ガストン大司教により施工、1742年に完成した宮廷。マリー・アントワネットやナポレオンなどが来たことで有名。一時期中庭に印刷業のバラックが建てられたが、文化物保存の際、ロアン邸のみ保存された。(nakano)

中庭空間の利用 / 仮設



Pont de Rohan、フランス

フランス、ブルターニュに現存する67mの橋。歴史は14世紀まで遡り、当初は橋の上に店舗や刑務所があったという。時代が下るにつれて橋には小規模の住宅が多く取りつき、現在の姿となった。(fujiwara)

橋上の建築 / 付着



スクランブル交差点近く渋谷駅高架下のカフェ

渋谷駅北側は宮益坂と道玄坂が下って合流した部分に山手線の高架がかかっている。通りと高架は直交しており、通りに並んで高架下に飲食店が入っている。(izumi)

高架下に直交して並ぶ店舗 / 付着



国連大学前に休日現れるマーケット

青山通りに面する国連大学には通りに対してセットバックする形で公開空地の広場があり、休日になるとNPOによってFarmer's Market @UNUという食をテーマにしたマーケットがテントで作られる。(izumi)

過密した都市空間の隙間に現れるテント群 / 仮設



Kolumba Museum/ ピーター・ズントー、2007、ドイツ

第二次世界大戦で破壊されたままになっていたコロムバ教会跡地の一角に残された礼拝堂は市民の教会として使用され続けていた。その礼拝堂を残したまま、その上に美術館がなご合わせられた。(fujiwara)

礼拝堂に覆いかぶせる / 堆積



Norwich Cathedral Refectory、イギリス

ノーリッジ大聖堂の食堂があった場所に同じスケールで新たに喫茶スペースを計画した例。不整形な端部を有していた外壁は異なる石材を用いて水平な壁へと整えられた。改修前の壁の形が素材の違いによって認識可能である。(matsuda)

更新の履歴を示す地層 / 堆積



Theatre of Marcellus、BC13、イタリア

マルケッス劇場は共和政ローマ末期からローマ帝国初期にかけて建設された古代の屋根のない劇場である。ローマ帝国崩壊後は廃墟となったが、中世初期には要塞として、16世紀には三階部分に住居が建てられた。現在も集合住宅として利用される。(fujiwara)

上に継ぎ足された住宅 / 堆積



チェスター北門、イギリス

チェスターの街としての歴史はローマ時代のカストラまで遡れる。当時の城壁内部に町が形成され、城壁自体も増築、拡張、修復され、時代を追って変化していった。現在は遊歩道となっている。(fujiwara)

ローマ時代の基地の利用 / 増床



シエナ、パンキエディ=ソブラ通りの壁面、イタリア

12C以降都市国家として金銀によって繁栄し、14C初めにその最盛期を迎えたシエナの街は、これまで戦災を受けずに来たことで中世の街並みをよく残している。細かな修理と改修が行われてきた建物には複雑な材料の付け足しの跡を見ることができる。(izumi)

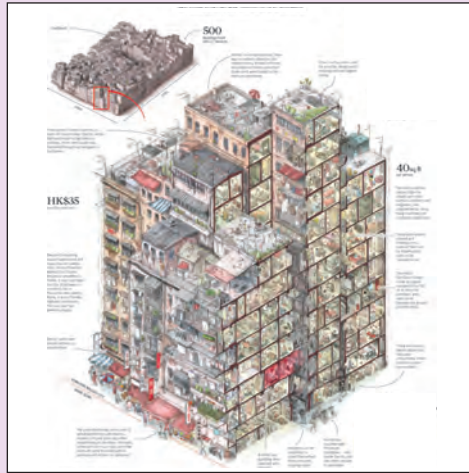
様々な素材の複雑な組み足し / 堆積

九龍城砦
1993、香港

もとは6階建ての集合住宅が、住宅難のために市民が不当に住宅を上積み上げ、結果的に14階建て相当の建物へと変貌した。(tabata)



増床 積みあがる狭小住宅



サンタンジェロ城、5C、イタリア

サンタンジェロ城はローマのテヴェレ川右岸に位置する城塞。2Cにハドリアヌス帝のため建てられた聖廟だったが、5Cには市壁の一部へと組み入れられて要塞化し、14C以降はローマ教皇の城塞として使用された。(izumi)

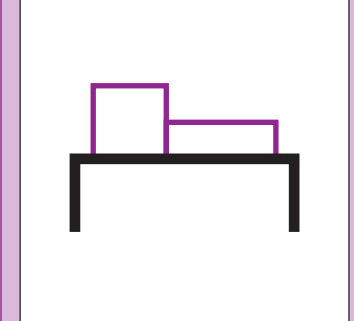
円型平面の中への様々な要素の積み上げ / 増床

ポルタ=ニグラ、
2C、ドイツ

186年から200年にかけてローマ市壁の北門として建造されたものが、中世になって身廊や尖塔で覆う形で教会として利用された。後に、ナポレオンの命によってそれらは取り除かれてしまった。(fujiwara)



堆積 市門の教会への転用



「積み重なる」
； 堆積 / 増床

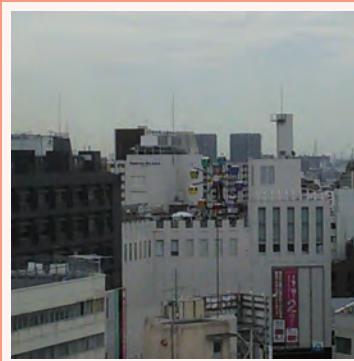
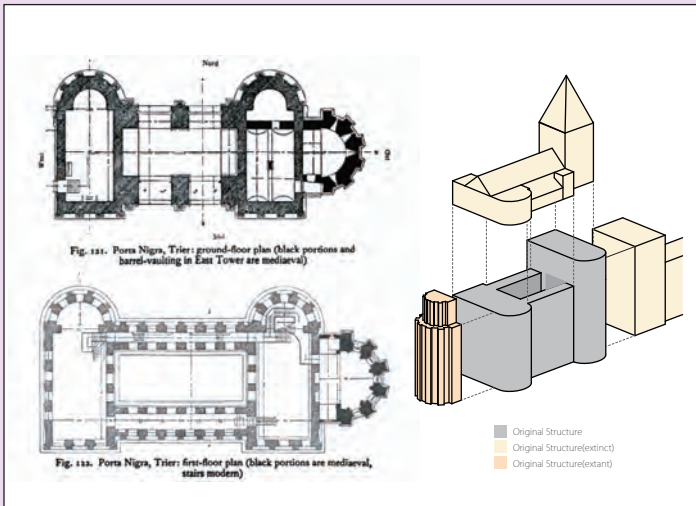
- ▶ 上部構造と下部構造の時間の対比、時間の積層 / 断層
- ▶ 限られた敷地内での面積増加、人口増加



Kraanspoor、オランダ

港でのクレーン稼働の際に利用されていた土木構造物が不要となったもの上にガラスのファサードを基調としたオフィスビルを建設した例。(matsuda)

用済みの構造に新機能のレイヤーを重ねる / 堆積



東急プラザ蒲田の屋上遊園地、1968

1968年に東急不動産が開発した東急蒲田ビルの屋上にある屋上遊園地。観覧車は1968年当初から代を変えながら置かれ続け、現在では都内唯一の屋上観覧車になっている。(izumi)

屋上部の地上レベルと同様な利用 / 堆積



16世紀のニームの円型闘技場、フランス

フランス南部の都市ニーム(Nîmes)の円型闘技場は、2世紀に建設される。西ゴート族により4世紀に要塞、8世紀に城塞となるが、カール・マルテルにより破壊され、住宅化する。19世紀に入ると、住宅が取り除かれる。(izumi)

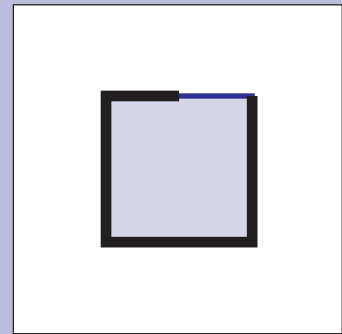
厚みのある市壁 / 洞穴



Casti da Riom/ ピーター・ズントー、2006、スイス

スイス、リオームの城塞。13世紀にthe lords of Wangen-Burgelsによって建設。1973年にその壁を保存するために切妻屋根がかけられる。2006年から祭りの開催場所として利用するため、劇場として中庭空間が利用された。(fujiwara)

中庭空間の室内化 / 竪穴



「充填する」 ； 洞穴 / 竪穴

▶もともと空間がある

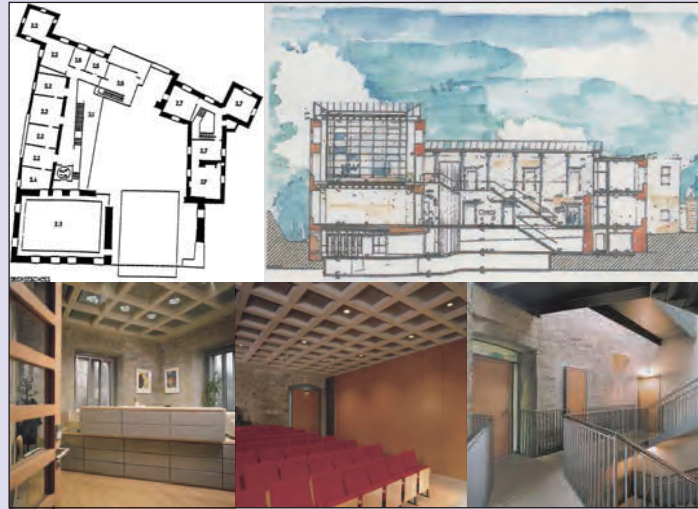
▷屋根をかけて空間を作る、壁の素材感

Kulturzentrum Witten Haus/ Busse Klapp、1996、ドイツ

1470年代ごろに建てられた後、第二次世界大戦の被害を受け遺構となっていたものに、石壁を残しつつガラスと鉄を用いて構築したもの。コンサートホールの内壁はガラスで覆われているが、リハーサル室は石壁がむき出しになっている。(nakano)



竪穴 石壁とガラスの 壁面の共存



18世紀のアルの円型闘技場、フランス

フランス南部の都市アル(Arles)の円型闘技場は、1世紀に建設され、4世紀に4つの塔をもつ住民の砦となる。200の住戸と2つの教会、中心に広場をもち完全な町と化した。19世紀になるとこれらは取り除かれた。(izumi)

円環状に繰り返される図と地 / 増殖



Refurbishment Viadukt Arches、スイス

鉄道高架下空間の利用例。特徴的なアーチ構造をもつ橋脚の下部空間を有効に利用することを旨とし、2008-2010年の工事により整備された。(matsuda)

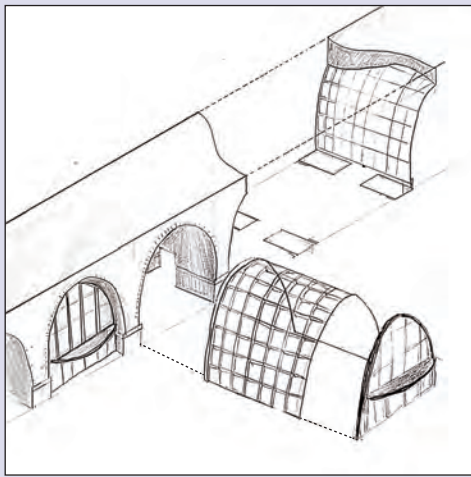
分岐点の高架下利用 / 洞穴

Le Viaduc des Arts、 1995、フランス

1859年に開通したヴァステーユ高架鉄道を1986年にパリ市当局が買い取りリノベーションを行った。アートショップなどに利用される。外壁が石造なのに對して、内装は木造の梁やインテリアが構成される。(fujiwara)



洞穴 高架下空間への フレームの挿入



シャリテ・シュル・ロワールのセントクロイス・ノートルダム教会、12C、フランス

聖地サンティアゴ・デ・コンポステーラへの巡礼路にあったセントクロイス・ノートルダム教会は、ベネディクト会修道院によって建てられ、建設当時キューニに次ぐ第二の規模を誇ったが、16世紀の宗教戦争による焼失以降衰退し、現在では身廊と側廊の一部がそれぞれ広場と住居になっている。(izumi)

中心の屋外化による図と地の二重性 / 洞穴



Newport Street Gallery/Caruso St John
2004-2015、イギリス

元舞台芸術の工房3棟を新棟2棟で挟みこみ連結することでギャラリーへと転用した。工場風の建物のなかに白壁の空間が広がる、YBAの筆頭アーティスト、デミアンハーストのプライベートギャラリー。隣接する建物との連続性のため、スラブを入れ替え高さを揃えている。(makatsuka)

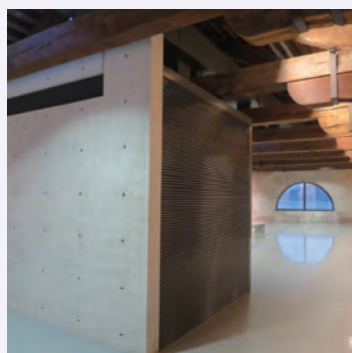
連結によるプランの変更 / 増幅



カステル・ヴェッキオ / C. スカルパ、1956、イタリア

カステル・ベッキオは、ヴェローナの都市国家としての独立に伴い12Cに建設された市壁の一部を利用し、14Cに建設された。1797のナポレオンの侵攻により破壊された後、兵舎へと改修された。1926に美術館に改修されたが、第二次大戦により再び被害を受け戦後C. スカルパにより改修がなされた。(izumi)

粗い内装の仕上げによる屋内の屋外の性質 / 洞穴



プンタ・デラ・ドガーナ / 安藤忠雄、2009、イタリア

15世紀に税関として建てられたレンガ造りの建物の外壁、木組は残しつつ内壁は取り払い、コンクリートの壁とした。

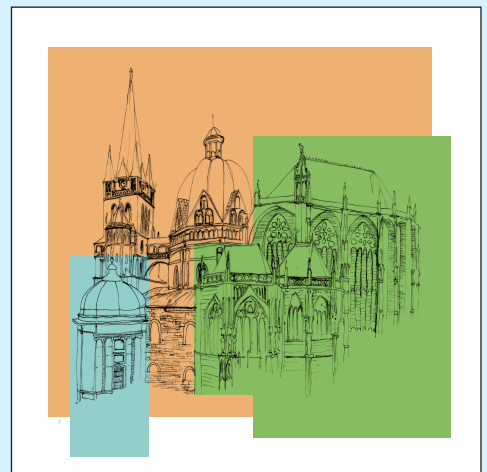
マテリアルの古今調和 / 洞穴的

アーヘン大聖堂、 786、ドイツ

786年にカール大帝がアーヘンの宮殿教会の建設を始めた。その後1000年にわたって増築がなされたため、様々な様式が混在している。(fujiwara)



増幅 増築による 様式の混在





フィレンツェのある街区、イタリア

街区の外辺を開くように建設された住宅街の内側に、住居が無作為に増築されている。(shintani)

ランダムで複雑な起伏 / 増殖



Mercat Santa Catarina/Enric Miralles and Benedetta Tagliabue、2005、スペイン

1845年に肉内労働者向けの食品市場だったものが、木の架構による屋根で現代風に刷新された。(tabata)

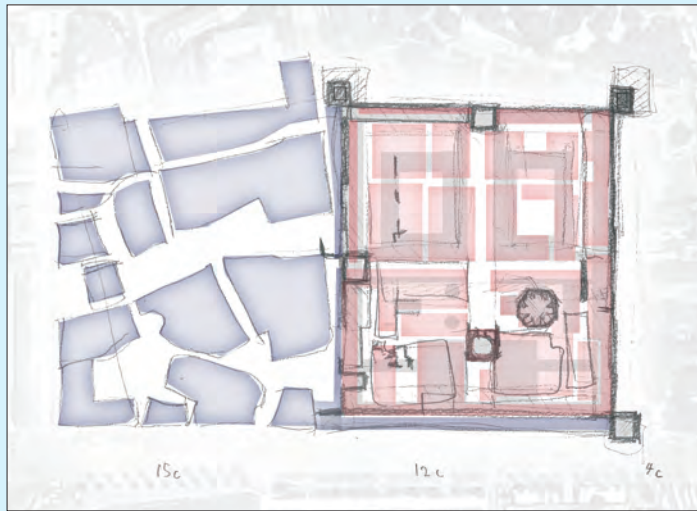
古典的な外観に現代的な屋根をかけて一新 / 自助

アーヘン市庁舎に隣接するカフェ、ドイツ

その建物の変遷等を概要する説明文
アーヘンの市庁舎と壁を共有する木造2階建てのカフェ。市庁舎は13世紀に建設されており、市庁舎を挟むように存在する大聖堂とマーケットの広場とともにアーヘンの街の重要な場所を閉めている。(tabata)

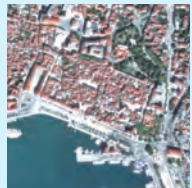


共生 求心性を利用して活動を生み出す

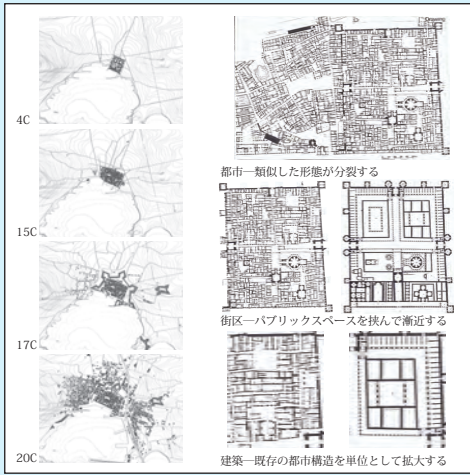


ディオクレティアヌス宮殿、305、クロアチア

退位したローマ皇帝ディオクレティアヌス帝が余生を過ごすために建てられた要塞型の宮殿で、7世紀の異民族の侵入以降近隣都市の住民が定住し、中世都市化していく。12世紀に城壁内の空間が使いつくされると都市は西側へと面積を2倍に拡大し、新たな防御壁を設けた。(izumi)



増殖 崩れながら増殖する宮殿



都市一類似た形態が分裂する

街区一パブリックスペースを挟んで漸進する

建築一既存の都市構造を単位として拡大する



Reichstag/Norman Foster、1999、ドイツ

第二次世界大戦時に傷ついたドイツ連邦議会議事堂は、冷戦終結を機に改修されることになった。フォスターは太陽光などのパッシブな環境因子をハイテク技術を駆使しコントロールし、かつシンボリックな意匠にも反映させた。(tabata)

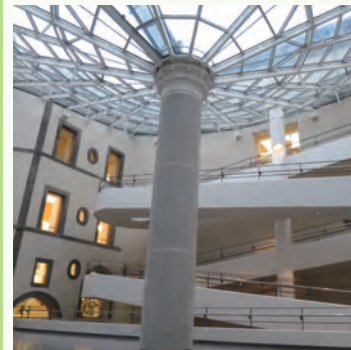
歴史性と現代技術の調和 / 自助



パサージュ・デュ・ケール、1798、フランス

パリ2区に位置するパサージュ・デュ・ケールは、エントランスに古代エジプトの神であるハトホル神をイメージした装飾がなされていることから、エジプトの首都であるカイロ(Caire)の名がつけられている。魚の骨のような鉄骨造のアーケードは、現存するもので最も古く、かつ最も長く狭いことで知られている。(izumi)

街区を利用した内部を界隈化 / 協力



クレルモン・フェラン美術館 / アドリアン・ファシベール 1992、フランス

クレルモン・フェランの歴史的な統一性を復活させるため、17世紀修道院の中庭を漏斗型のガラス屋根で覆いアトリウムとして修道院を美術館として改修した。(tabata)

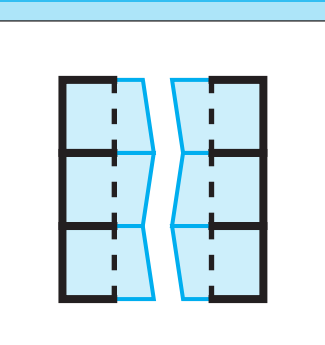
中庭に屋根をかけアトリウム化 / 自助

グレート=コート / N. フォスター 2000年、イギリス

グレート=コートは大英博物館と博物館中庭にある円型閲覧室の間に架けられた鉄骨とガラスのアーケードで、博物館の各部屋をつなぐとともにミュージアムショップやレストランが配置されている。図書館機能の移転に伴う改修で、書庫を撤去する一方で円型閲覧室を残す形で実施された。(nakano)



自助 トラス構造の屋根架構



「あふれ出る」 ; 増殖 / 増幅

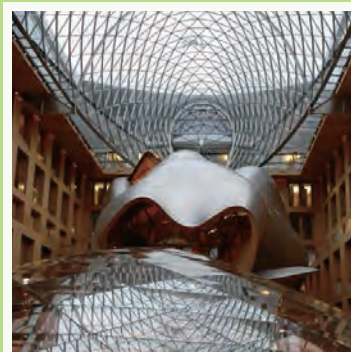
▶住居系、自然発生的、人口増加
▷モニュメント系、巨大化



Frac Nord-Pas De Calais / ラカトン&ヴァッサル、フランス

ダンケルク市にある、旧プレハブ工場のリノベーション。旧工場の横に同じ形、サイズの建築を付け足した形で、現代美術作品の収蔵施設として利用されている。(fujiwara)

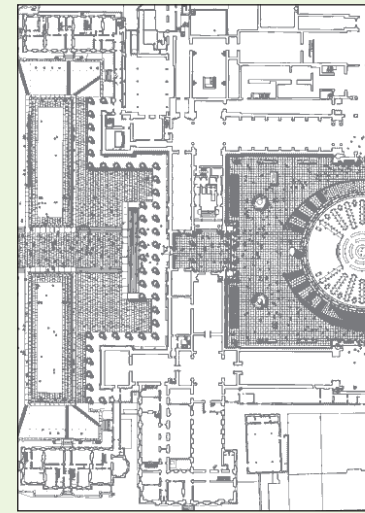
プレハブ工場のリノベーション / 増幅

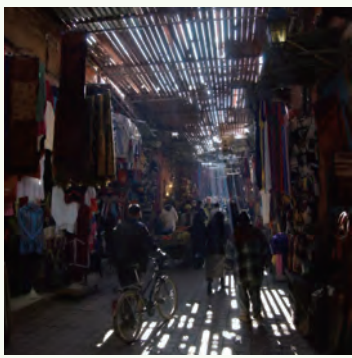


DG銀行 / ゲーリー、1999、ドイツ

ベルリンの既存ビルの改修。アメーバ状のガラス、トップライトのアトリウム空間が魅力。下にもガラスがあるのは、下の階にも光が届くように、とのこと。(nakano)

アトリウム空間と反射光の利用 / 自助





マラケシュのスーク (市場)、モロッコ

マラケシュのスーク (市場) は、ベルベル・イスラム都市で最大の規模を持つ。スークは大モスクとともにメディナ (市街地) 中央に設けられ、多くの場合屋根がかけられる。マラケシュでは建物の間に鉄骨の平面トラスを渡し、その上に幅の狭い木の板を渡している。(izumi)

細い鉄骨と木材の架構による柔らかな光 / 協力



九份の商店街の屋根、台湾

鉱山都市であった九份は閉山したのち廃れたが、映画ブームから観光スポットとしてにぎわいを見せることになる。その影響が、商店街にも建築に増設される形で造られた屋根がみられる。(nakano)

観光地化による屋根の増設 / 協力



ポンテ・ヴェッキオ、1345、イタリア

ポンテ・ヴェッキオはフィレンツェ最古の橋であり、アルノ川の川幅の最も狭くなった場所に架けられている。始め橋の上は屠殺を行う肉業者によって占有されていたが、現在では宝石商や美術商が軒を並べている。(izumi)

橋への人の集まりを利用した線状の並び / 付着



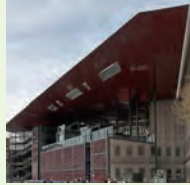
ヴァザーリ回廊、1565、G.ヴァザーリ、イタリア

ヴァザーリ回廊は、当時フィレンツェの実権を握っていたメディチ家が邸宅 (現ピッティ宮) と執政所 (現フィツィ美術館) を直接結ぶために設けられた回廊である。一族の安全を確保するため設けられた回廊はポンテ・ベッキオ東側の2階レベルを通っている。(izumi)

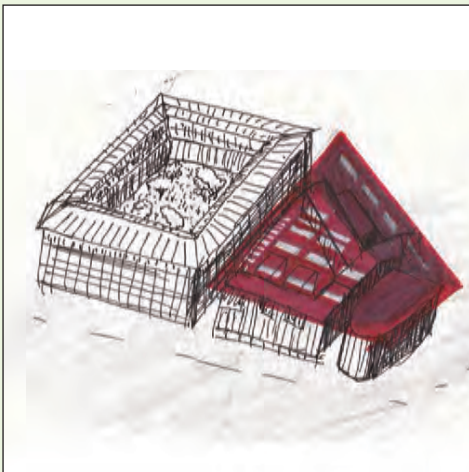
都市を縫い巡る回廊 / 誘導

Museo Nacional Centro de Arte Reina Sofia /Jean Nouvel 他、2005 Spain

1788年に建設された大病院が1965年閉院。1977年国の歴史遺産指定により、美術館への転用が決まる。1988年イアン・リッチーによりエレベーター塔がつけられ、2005年には特別展示室、図書館、ホールなどの3つのボリュームが建てられる。増築部には赤い大屋根がかけられ、新たなアトリウムが形成された。(nakano)



協力 既存の建物を包む大屋根



アムステルダム大学図書館/Atelier PRO 2006、オランダ

運河沿いにある4棟の集合住宅をガラスによって連結し図書館へと転用した。運河側2棟は、1棟が外壁のみ残されハイテクな設備が必要な書庫に、もう1棟は文化財に指定され内部の改修が行われた。中庭側2棟は、1棟が保存され、もう1棟は平面的に斜めな配置であったため、鋭角に切断された。(nakatsuka)

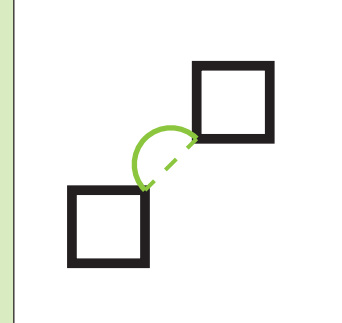
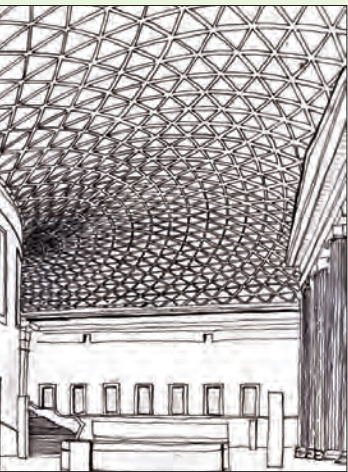
ガラスによる建物の結合 / 協力



Sackler Galleries, Royal Academy of Arts/Norman Foster 1991、イギリス

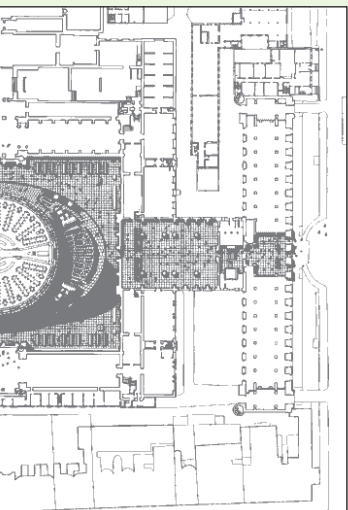
バロキアン様式のバーリントン邸、ヴィクトリアン様式のギャラリー、ふたつの歴史建築がつながったロイヤルアカデミーオブアーツを、スチール、ガラスなど現代の素材を用いて改修し、歴史性を浮かびさせる。(tabata)

現代技術との対比による歴史性の強調 / 協力



「つなぐ」
; 誘導 / 自助 / 共助

- ▶ 流動 / 滞留; アクセス
- ▶ 自助 / 共助; 近隣関係



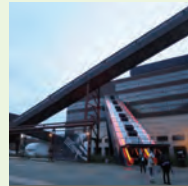
チェサレ・ビル、イタリア

19世紀末にローマの軽工業や労働者のために開発された地区で1905年にはビル同士を連結してバス工場になるも廃墟化する。1970年代後半、アーティストが住むようになる。階高の異なる建物を連結したことで傾斜したブリッジが飛び交う。(nakano)

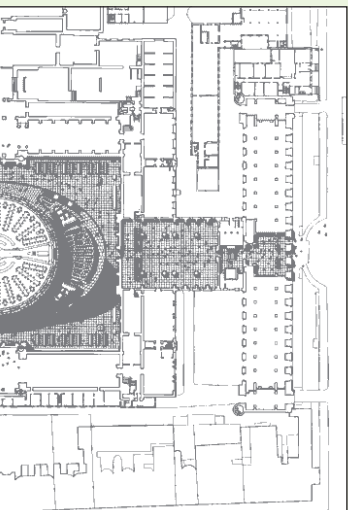
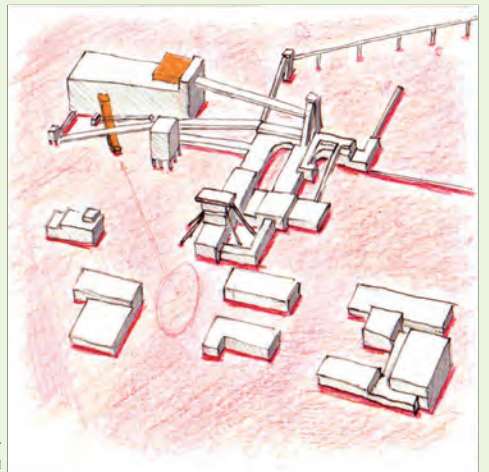
非計画性によるルーズさ / 誘導

ルール博物館 / OMA、2001、ドイツ

1993年に閉鎖されたツォルフェイン炭鉱を博物館、美術館、店舗、展示会場にリノベーション。当時の設備はそのままになっている。ルール博物館はOMAが手掛けたもの。鉄骨ラーメン構造のため、エントランスに向けたエスカレータのために壁面に穴を開けるのは容易かったと考えられる。(tabata)



誘導 頑強な構造に付与された新たな動線



工学部2号館改修、岸田省吾、2005

工学部2号館は、震災後キャンパスの全体計画を行うことになる内田祥三により設計され、関東大震災翌年の1924に竣工した。2005の改修では建物の歴史的価値と景観の観点から、安田講堂側の南半分が保存された。(izumi)

ドライエリアを渡るブリッジ / 誘導



クエリーニ・スタンバリア財団 / C.スカルバ、1961、イタリア
クエリーニ・スタンバリア一族のコレクションを管理するために設立され、16Cに建てられた一族の邸宅に本拠地を置く。1階部分の浸水が激しかったためにC.スカルバにより1階と裏庭の改修がなされ、新たに建物へ橋が敷設された。(izumi)

窓の形状を利用した新たなアプローチ / 誘導

Architecture in Time

2016/05/12

« Strategy »

KATO STUDIO 2016

「強い構造」を再利用し
「弱い構造」で新たな空間を創造する

14:00-17:00

レクチャー&ゲストクリティーク
@加藤研究室 (306)

講師：小見山陽介

エムロード環境造形研究所 赤城高原アトリエ設計室
東京大学大学院・技術補佐員／博士課程
前橋工科大学・非常勤講師

建築家／小見山陽介氏によるデザインレクチャー

Architecture in Time

2016/05/17

« Structure »

KATO STUDIO 2016

「強い構造」を再利用し
「弱い構造」で新たな空間を創造する

16:00-18:00

現代の「強い構造」に関するレクチャー
@加藤研究室 (306)

講師：杉本訓祥

横浜国立大学 都市イノベーション学府・准教授

構造専門家／杉本訓祥氏による構造レクチャー

スタジオ参加学生
作品集



Street Warehouse Station

- ガソリンスタンド再考 -

03-150108 松田 涼



■ 廃業後のガソリンスタンドを考える

高度成長期の整備計画

現在内ガソリンスタンドの多くは、高度経済成長期の道路ネットワーク整備に伴って設置された。

幹線道路沿いや交差点付近を中心に分布するガソリンスタンドは、コンビニエンスストアにも匹敵する点在数を誇る。

相次ぐ廃業・更地化

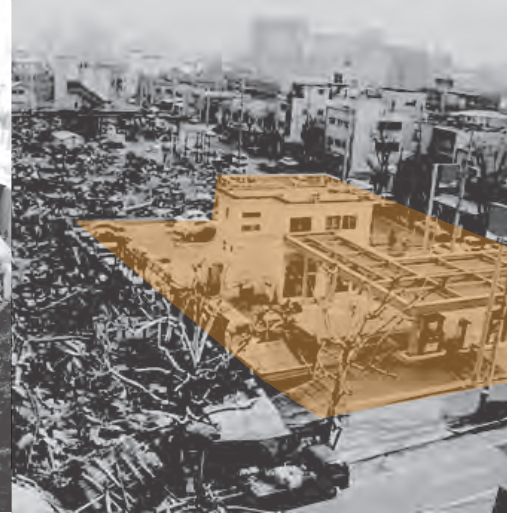
2010年の消防法改正により、設置後40年以上のガソリンスタンドの地下タンク改修が義務付けられた。

しかし、業者の多くはタンク修繕費を賄えなかったり、回収後の経営安定の目処を立てられないことから、廃業に追い込まれている。

災害時の価値発揮

地震発生時のガソリンスタンドの被害報告は最小限にとどまっており、非常時を視野に入れた地域資源としての価値は高い。

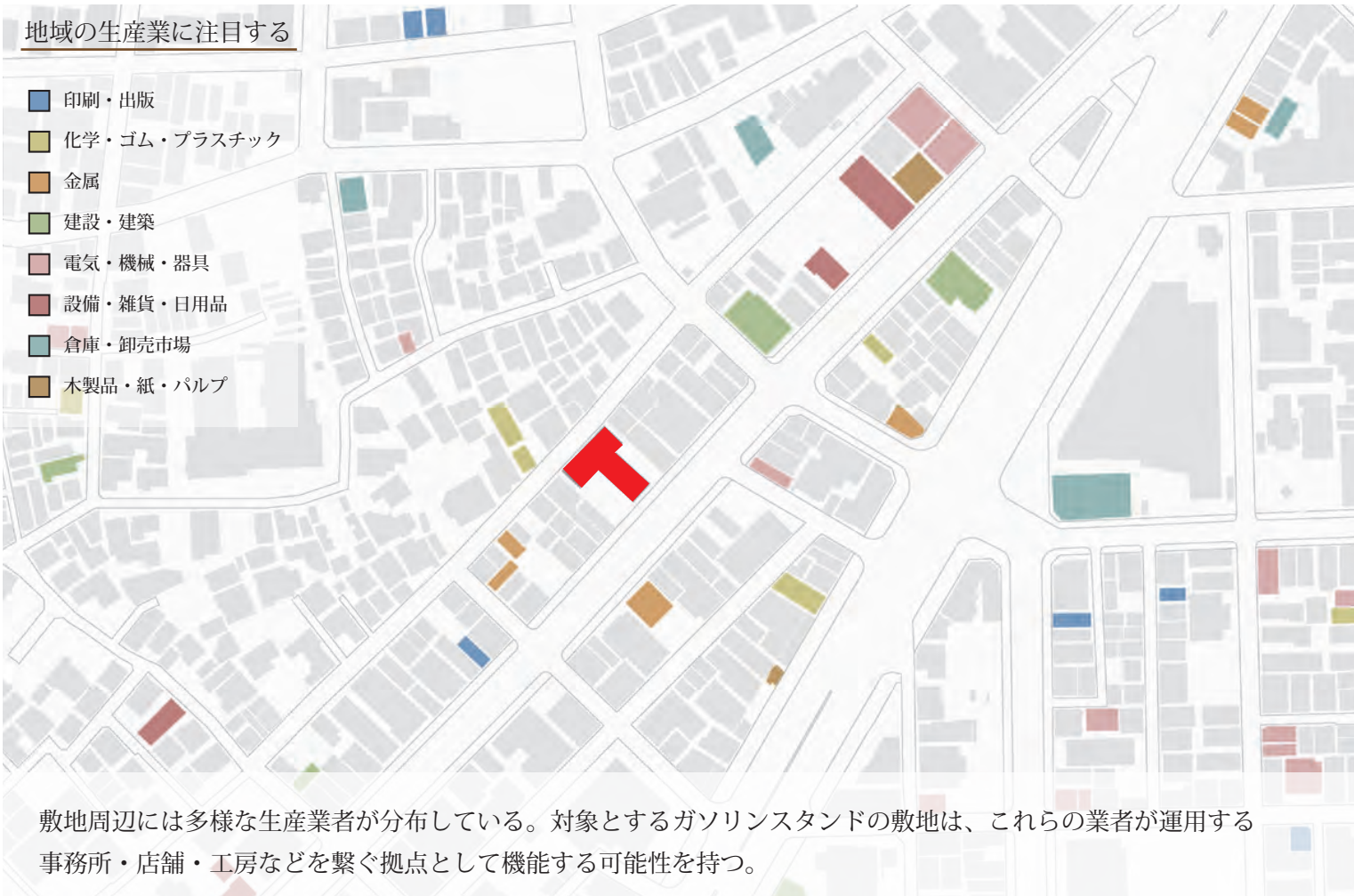
そこで、空地の少ない木密地域で、ガソリンスタンドの跡地が日常時、非常時に発揮する価値を再考する。



■ 対象敷地：台東区根岸5丁目（木密住宅地）のガソリンスタンド

地域の生産業に注目する

- 印刷・出版
- 化学・ゴム・プラスチック
- 金属
- 建設・建築
- 電気・機械・器具
- 設備・雑貨・日用品
- 倉庫・卸売市場
- 木製品・紙・パルプ



敷地周辺には多様な生産業者が分布している。対象とするガソリンスタンドの敷地は、これらの業者が運用する事務所・店舗・工房などを繋ぐ拠点として機能する可能性を持つ。

ガソリンスタンド跡地分析

敷地外周を取り囲む防火壁

高い天井を作り出すキャノピー

ガソリンタンクを収容していた地下空間

広い間口をもつ接道部

地域に根付いた、徒歩・自転車圏内のネットワーク

ガソリンスタンド周辺の徒歩・自転車移動に対応した半径約 100-150m 圏内で地域内のまとまりを考える。
ガソリンスタンド跡地は、この圏内で〈近距離〉〈低速〉〈少量〉のヒトとモノの移動拠点として機能し得る。

■ 広域ネットワークの物流を支える



道路沿い・交差点付近の立地を背景に、ガソリンスタンドは広域輸送ネットワークを中継しつつ都市に点在している。その跡地は、都市における〈長距離〉〈高速〉〈大量〉な交通と物流を支える拠点として機能し得る。

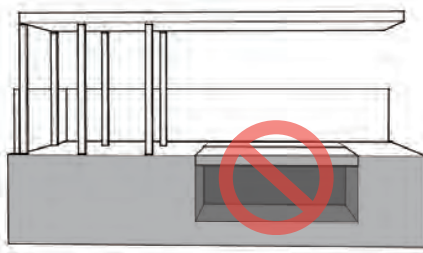
■ 西洋建築から学ぶ〈弱い構造〉の設計手法

□ 手法1：「充填する」

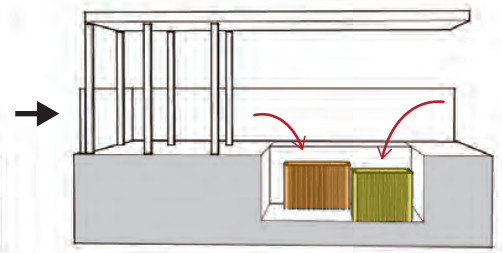
鉄道の高架下における空間利用は、元来機能を持たなかったアーチ内部に新たな機能を「充填する」ことによって成立している。ヒトやモノが入り込むことが想定されていなかった場所を現代の都市において発見して、新たな機能を介入させることで、都市における住みこなしはより豊かになる。

Le Viaduc des Arts / 1995 フランス

封印されていた地下空間を開く

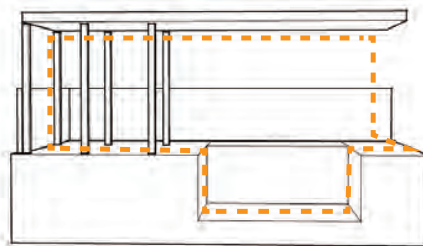


オイルタンクを埋設する地下空間は、室利用を想定せず封印されている。

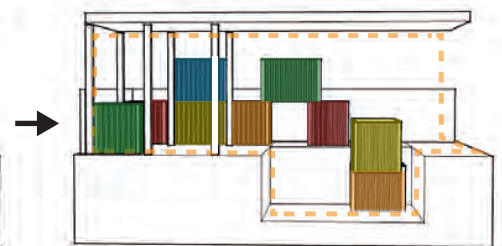


封印されていた地下が開かれると、地域活動が入り込む余地ができる。

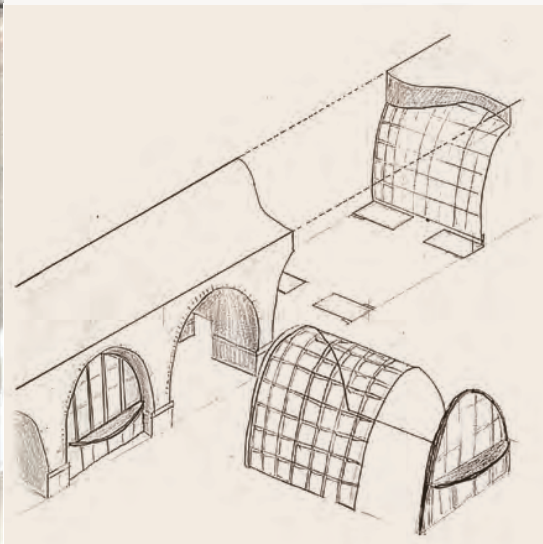
容積率未消化のスペースを活用する



地上、地下に広がる豊かなスペースを地域ストックとして評価する。



地上・地下を一体的に活用して、地域資源を守る拠点をつくる。

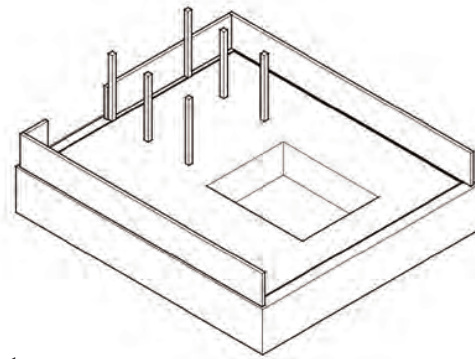


コンテナによる〈動く倉庫〉

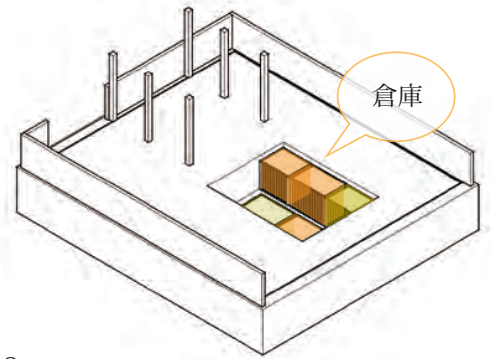


地域に点在する生産拠点に寄り添った物流のハブとして、この敷地に「倉庫が集まる場所」を提案する。

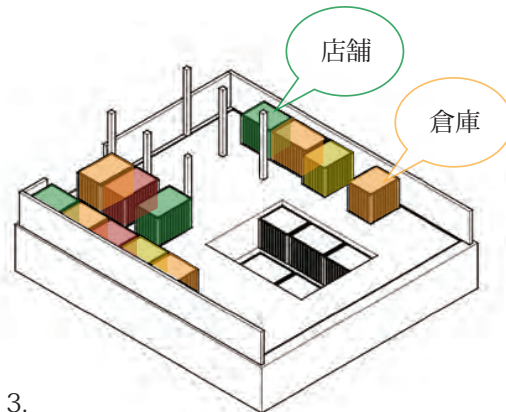
倉庫は、店舗の在庫、売れ残り品、古材などのストックを中心に担いつつ、副次的にこの土地で新たな商業行為を誘発していく。



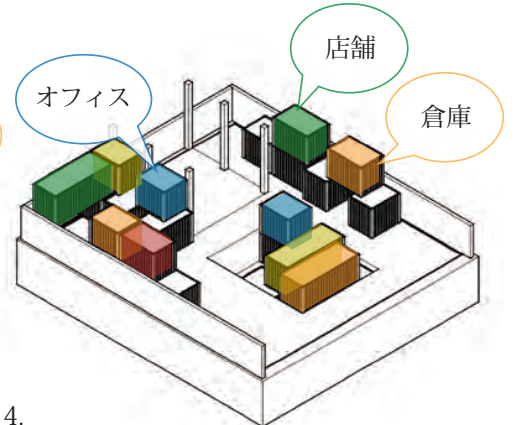
1. 地下タンクを撤去し、スペースを設ける。



2. コンテナを運び込み、倉庫として利用する。



3. 倉庫利用が拡大し、コンテナが増えていく。



4. ニーズが変化すると、倉庫は移動・撤去され、倉庫の置き方は自由に更新される。

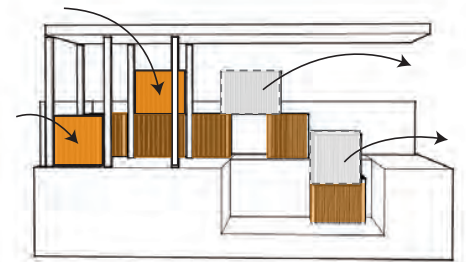
手法2:「群がる」

既存建築が内包する、広大な容積率未消化の空間は、その内部で行われる活動を強く規定しない。そこにはヒト・什器・仮設物・植物などが入り込み、多様な使われ方が想定できる。小さなスケールをもったものが大きなスケールをもつ構造に「群がる」ことで、そこは親密さを伴った場所になる。

Puerta de Atocha
/ ラファエル モネオ, 1992, スペイン



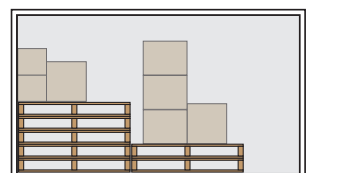
流動的、暫定的な土地利用を促進する



仮設性の高いコンテナは、可変性・流動性に富み、移動・撤去しやすい。ニーズに従って配置を更新しながら、暫定的な土地利用が可能となる。

非常時の活用を考えながら日常的に利用する

日常時：倉庫



非常時：仮設住宅



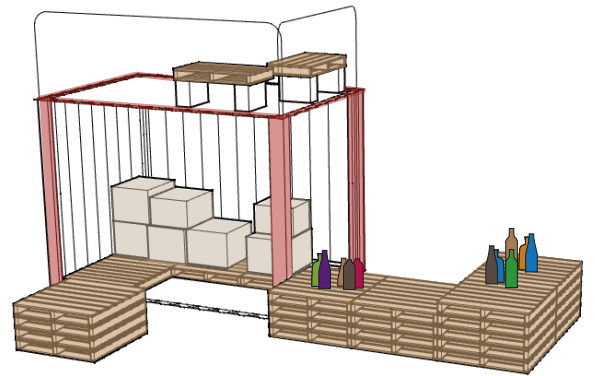
密集地における空地は、地震などの災害時に防災拠点となる。コンテナは、備蓄庫として倉庫利用を維持しつつ、仮設住宅に転用できる。

■ 倉庫をきっかけに、使い方を広げる

時間と場所に縛られずに店舗を展開する ex.1) 酒屋

ガソリンスタンドの隣地に位置する酒屋は、コンテナを保管庫の延長として使う。

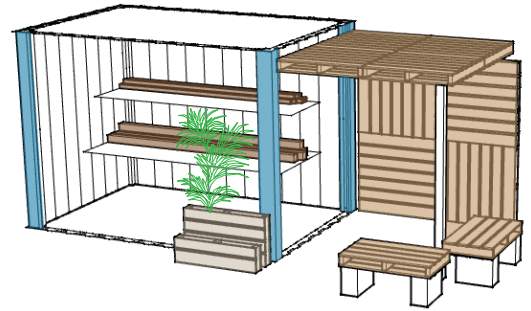
パレットを使えば仮設的な飲食空間をつくることができる。



周辺の変化に対応した利用を考える ex.2) 建材屋、建設工事会社、材木店

古い建材や近隣の解体・建て替えて生じた廃材を保管する。

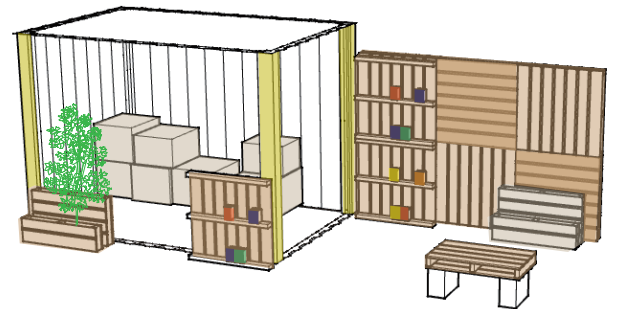
建物に使わなくなった材料を家具に部分利用したり、近隣住民に安価で提供する。



自社製品を活かして環境をつくる ex.3) 内装屋、家具メーカー、木工業者、印刷業者

木工業者と家具メーカーが共同で販売スペースをつくるなど、異業種の在庫を同じ土地で管理することで、業者間の連携によって新しい商売が生まれる。

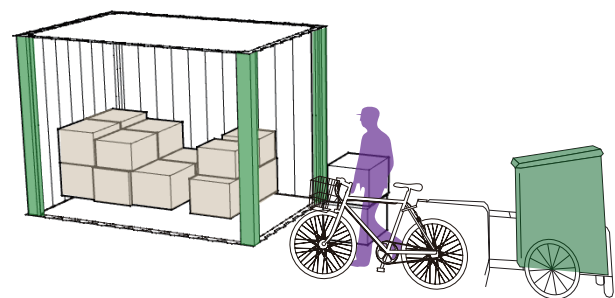
自社製品を活かしながら倉庫まわりの環境をつくることで、モデルルーム的利用にも発展していく。



近隣住民との接点を強める ex.4) 運送・宅配業者

再配達物の保管庫や受け取り拠点として倉庫を活用する。

また、敷地内の倉庫で購入した商品を自宅まで宅配するサービスを請け負うことで、地域とのつながりを強めることができる。



1階平面図 (S=1:100)



Tamagawa Tower Tent

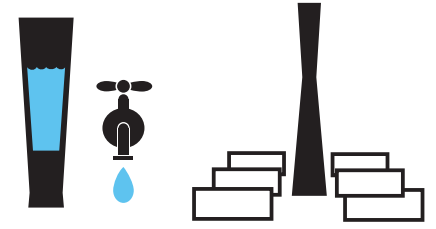
150104 藤原 亮





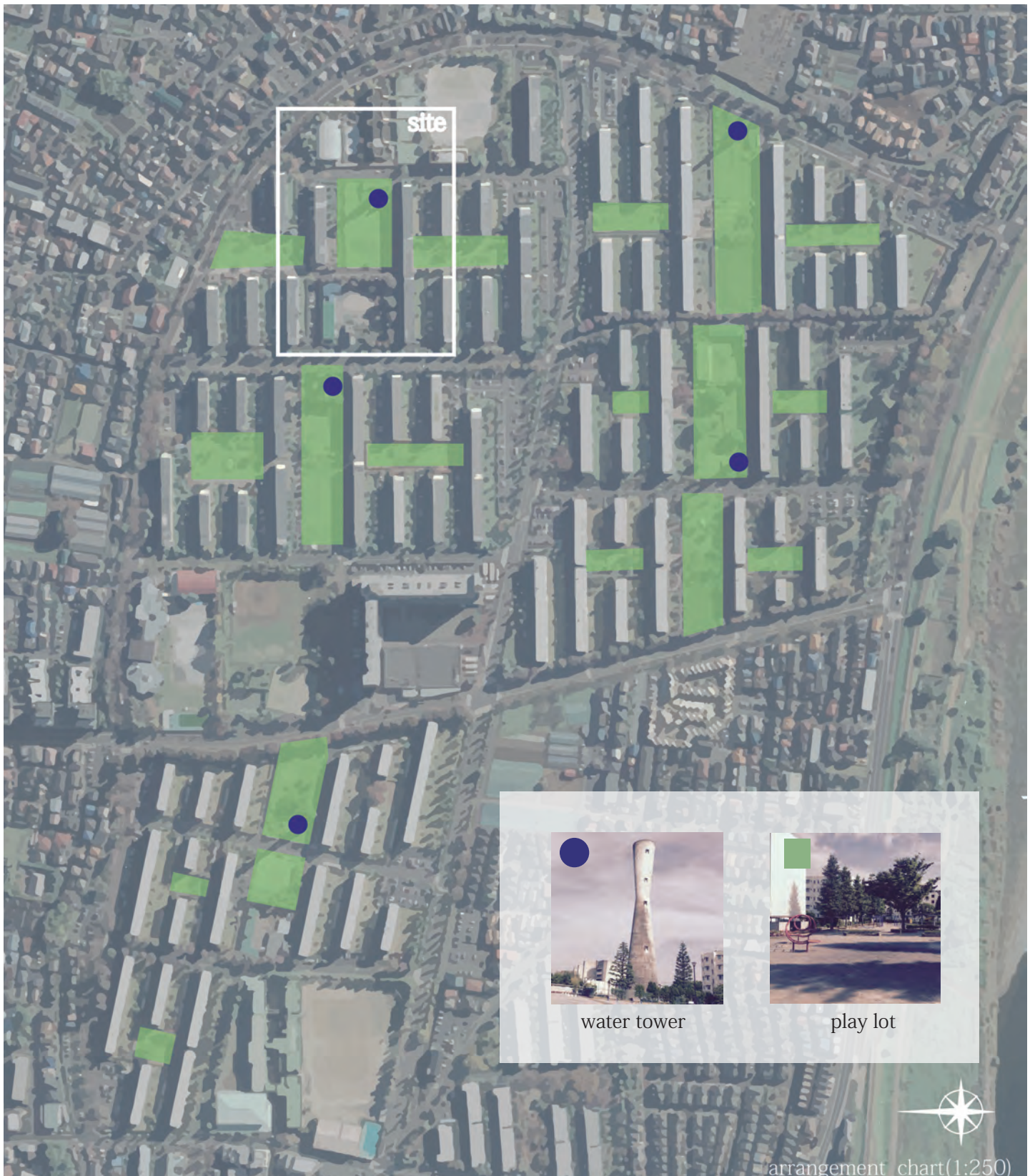
■ 多摩川住宅と給水塔

89棟にもおよぶ広大なマンモス団地である多摩川住宅には多くのプレイロットが設けられ、その合間には5本もの給水塔が存在している。昭和30～40年代に建てられたこうした給水塔は水道に水圧をかける役割を持っていたが、その後のポンプの性能向上により存在意義を失いつつある。しかしながら、災害時には給水塔に貯蓄された水を取り出すことができ、均質な団地においてランドマークとしての役割を果たしている。



Impoundment

Landmark

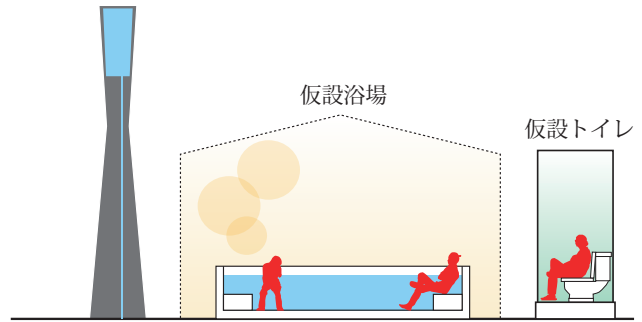


■ 災害における公衆衛生の問題



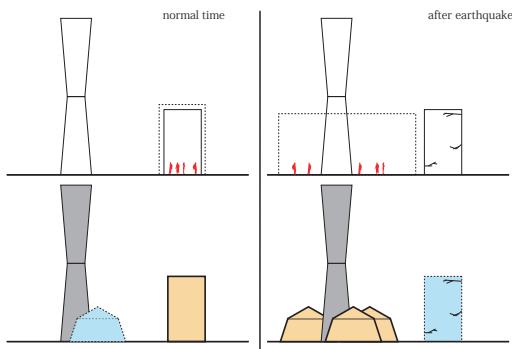
震災後の一時避難所として体育館などの大空間が利用されるなかで、水回りの設備（トイレ、浴場、キッチン等）の不足のため被災者の健康と生活に影響が出てしまうことが問題となっている。

■ 給水塔の利用



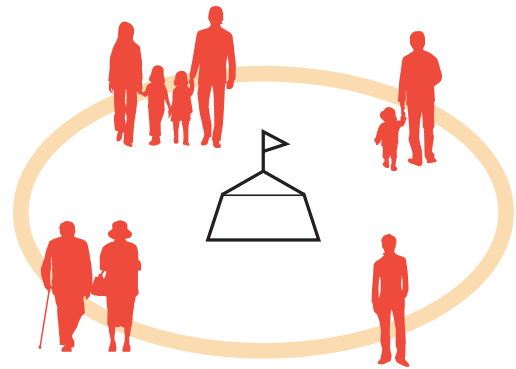
団地中に広がるプレイロットに、給水塔に貯蓄された水を利用した仮設浴場を設置するとともに、仮設トイレ、キッチンなど水回りの設備を集約することで、周囲の体育館などの一時避難所と連携する。

■ 震災におけるテント



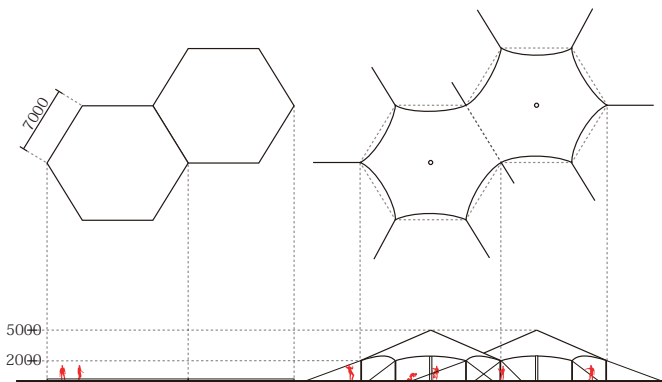
普段は強い構造である建物業も、震災においては診断によって安全性が担保されるまでは「弱いかもしれない構造」となってしまう。一方で仮設的で軽い構造体は地震力を受けにくく、余震などによる影響も少ない。

■ テントを通じた交流



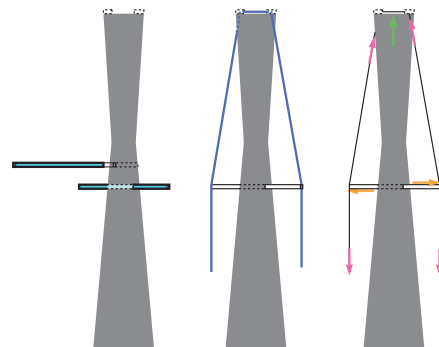
平常時には市場やお祭りなどの催しによって、分断されがちな世代間の交流を促進し、コミュニティの関係性を強める。またそうした催事におけるテントの立ち上げがそのまま防災訓練となる。

■ テントユニット

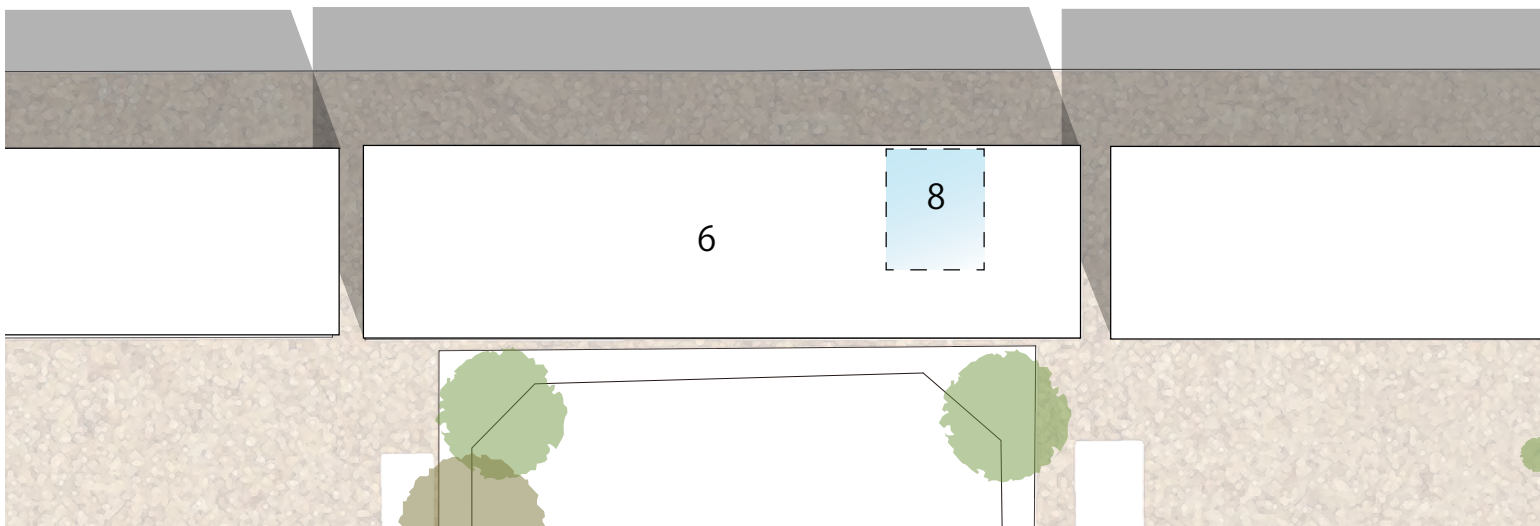
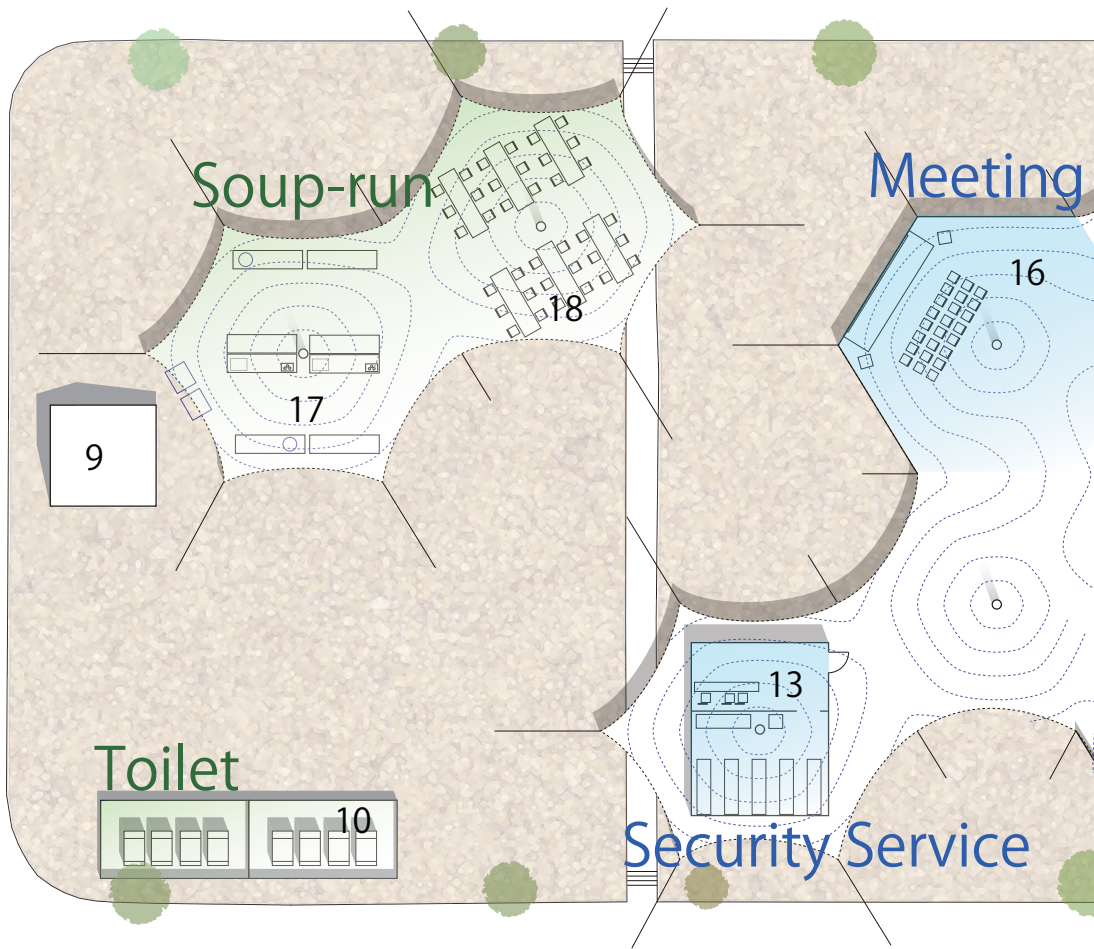


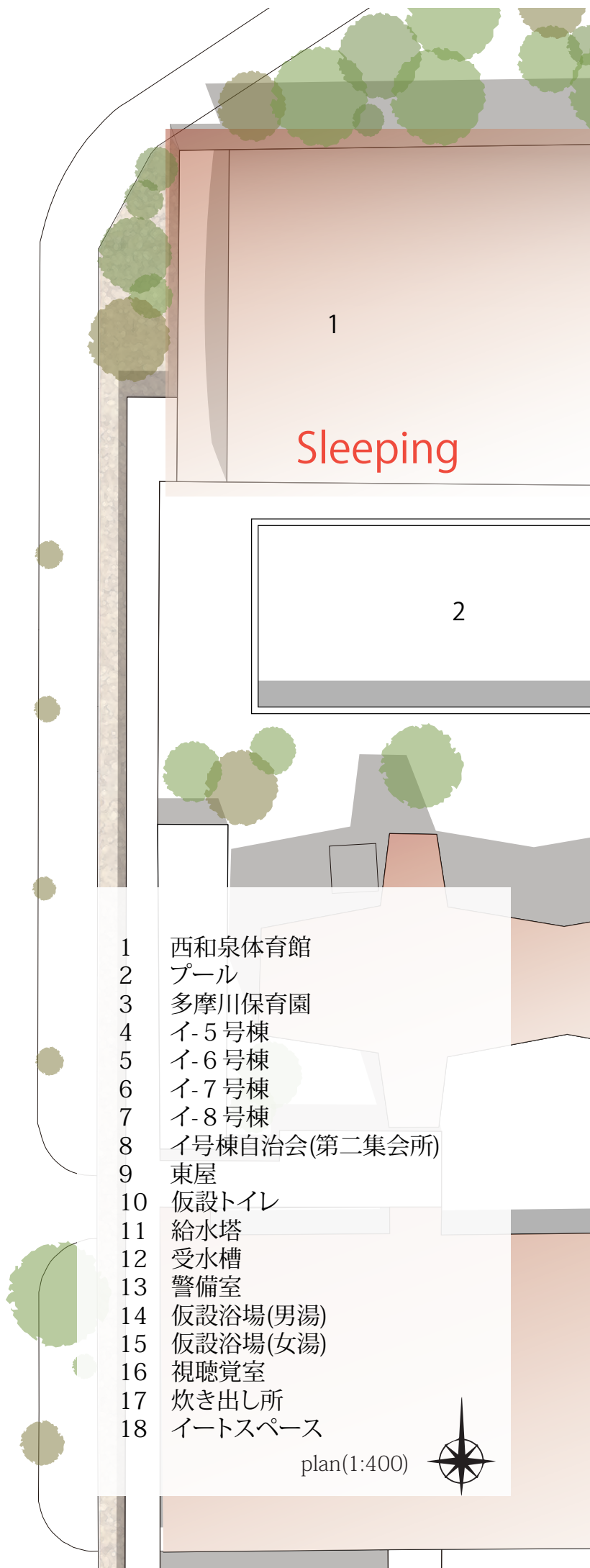
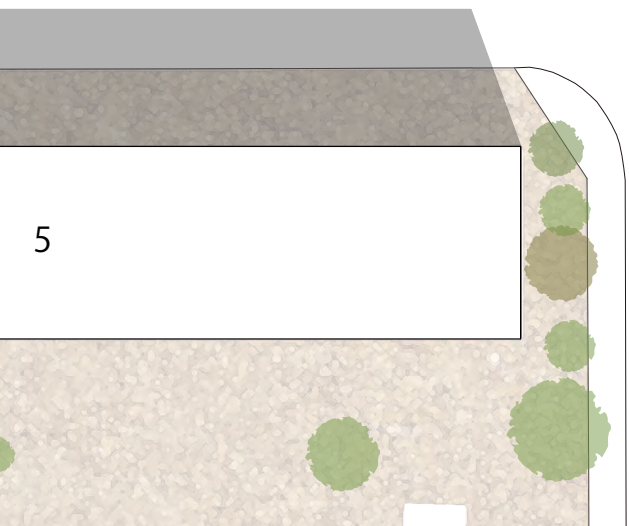
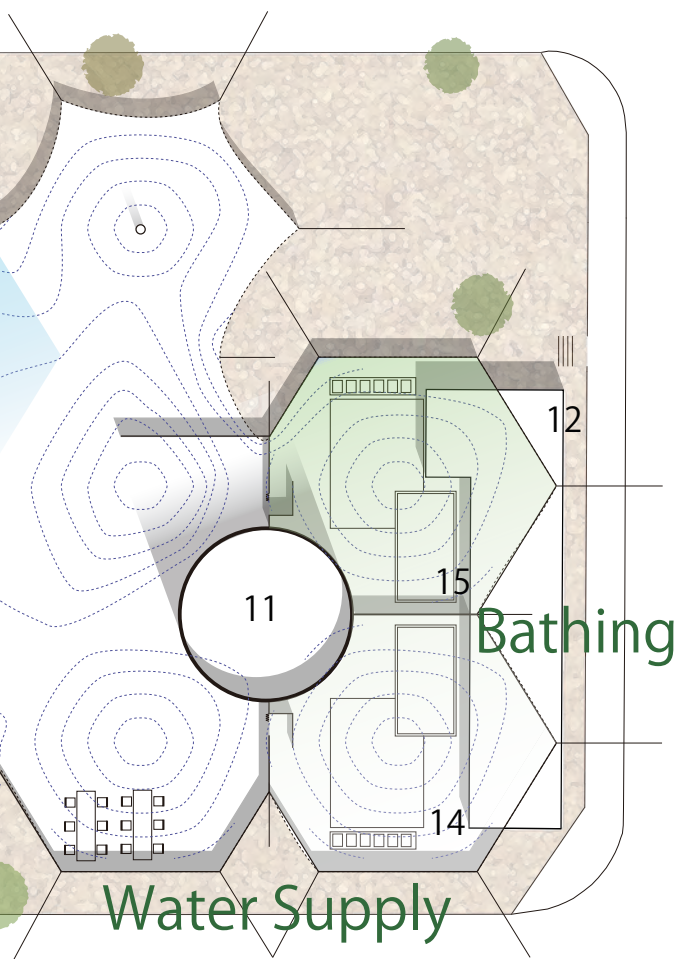
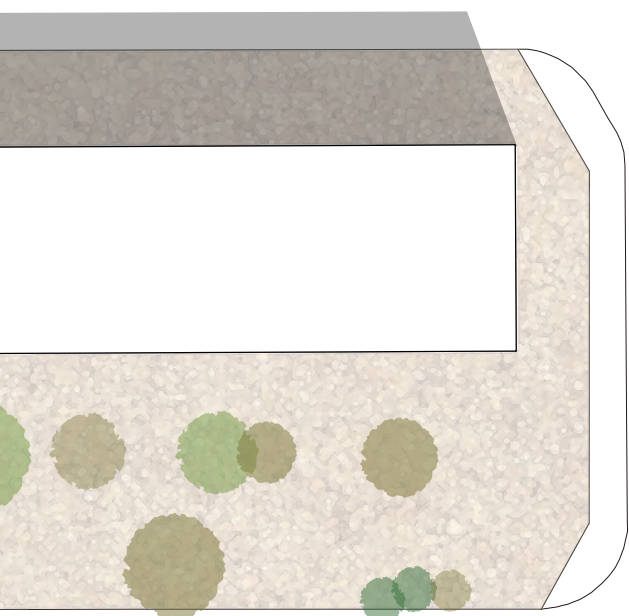
平面充填において効率の良い正六角形を基本ユニットとしたテントを設定する。団地の住民たちの力のみで立ち上げられるスケールであり、辺と辺を繋いでいくことにより大きな空間を作ることができる。

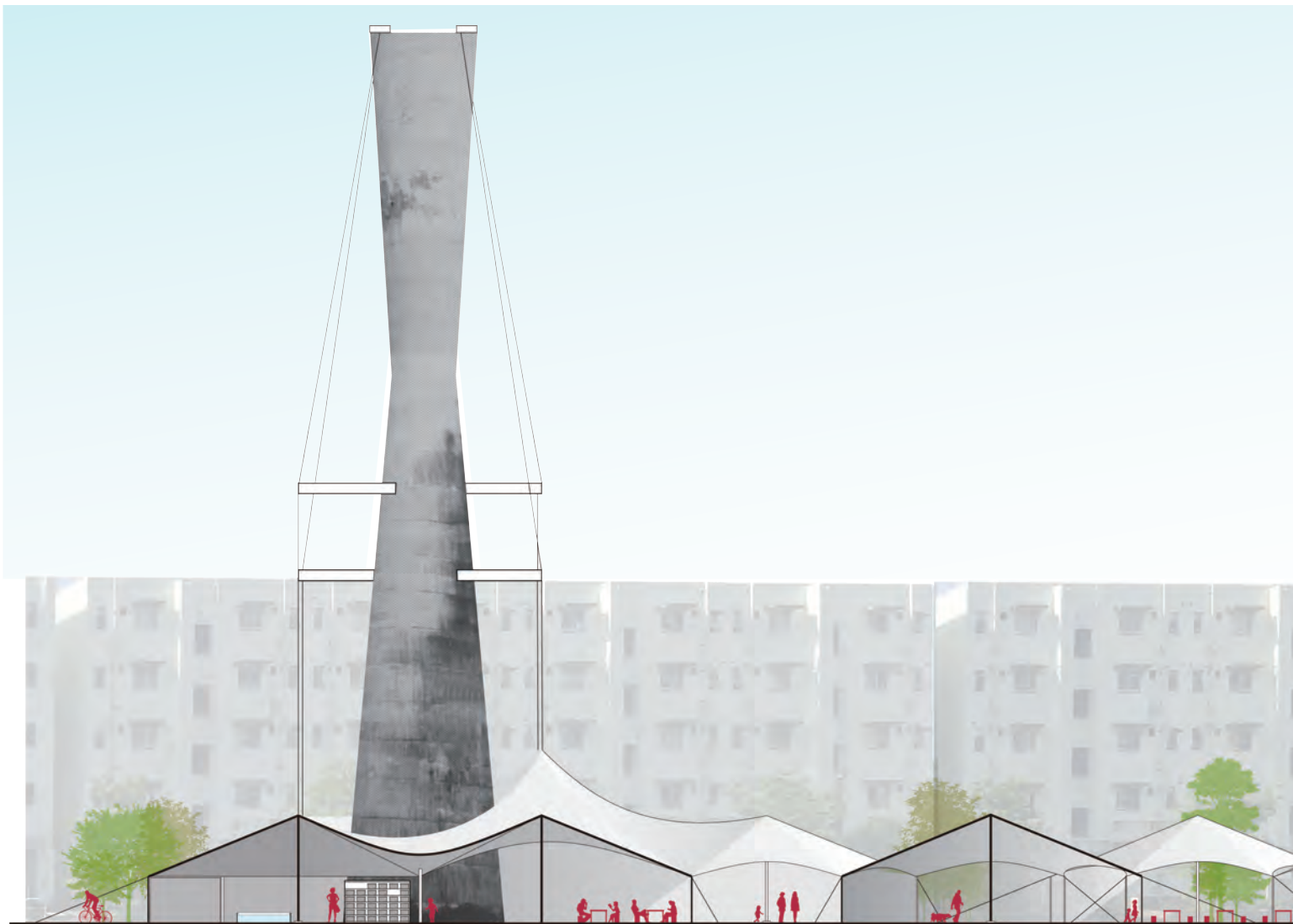
■ 給水塔への操作



塔の途中に梁を通し、上部と梁に引っ張り用のケーブルをかけることでテントを吊る。これによって塔に直接かかる力を垂直の圧縮力のみとし、また重心の高さを下げることができる。







■ テントの配置とハレの空間

災害時

月に一度開かれる市場

夏祭りと盆踊り

フリーマーケット

テントの配置の仕方によって、テント内部のみならずプレイロットの残余空間が多様な形態をとりうる。想定される様々なシーンにあわせてテントによって柔らかく空間を区画することで、それにともなった動線を作り出すことができる。





section(1:100)



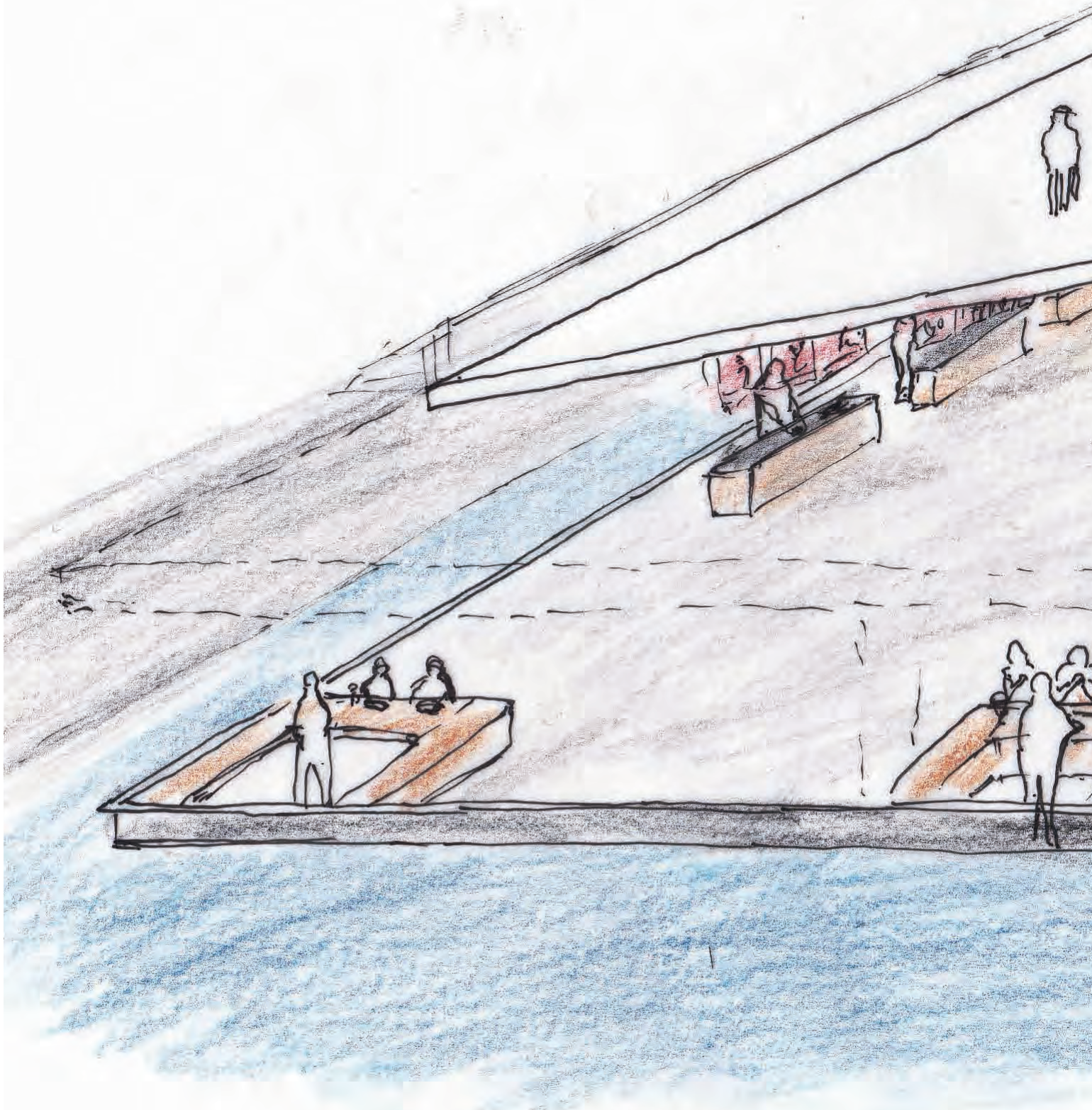
災害時のテント



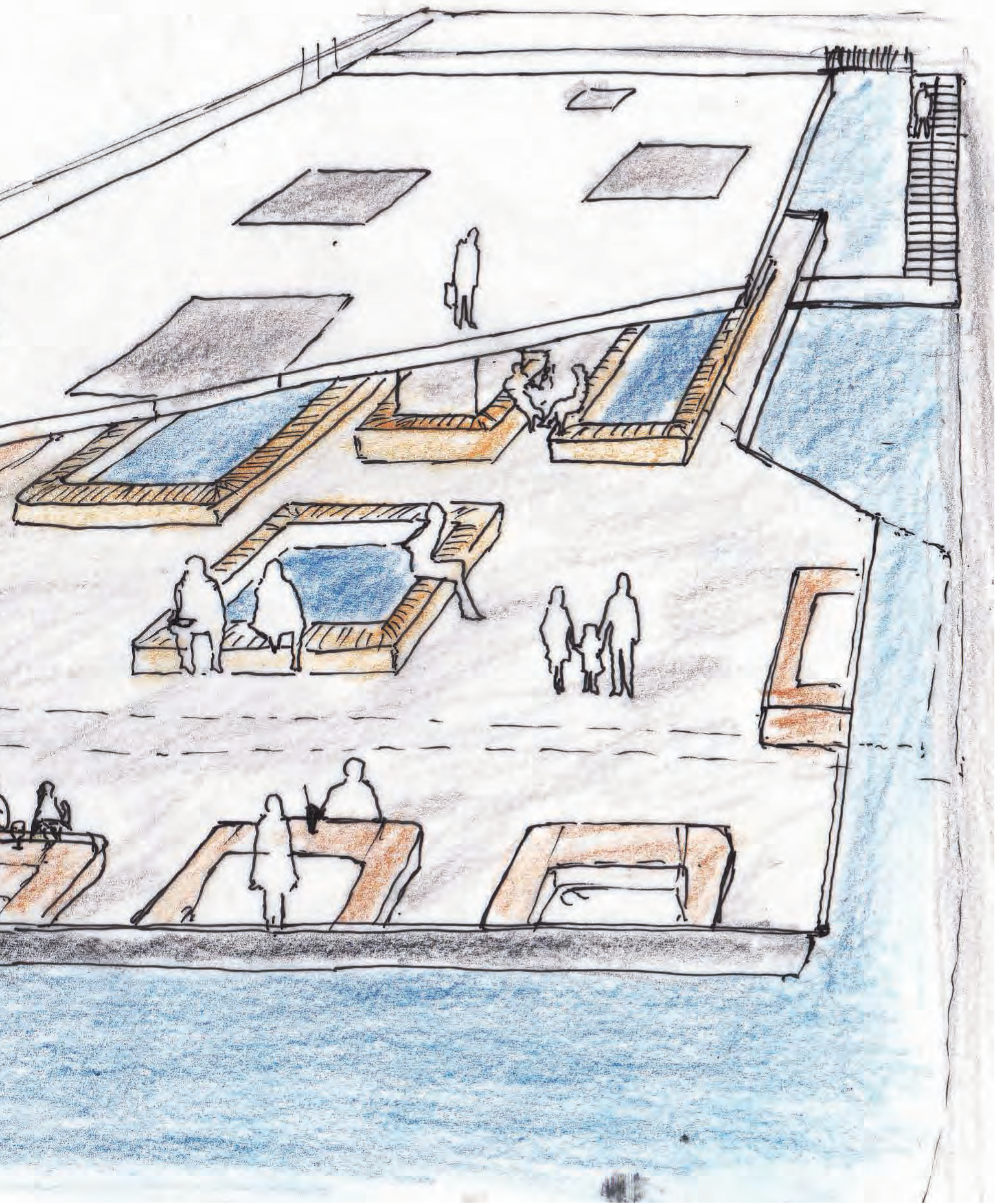
夏祭りと盆踊り



フリーマーケット

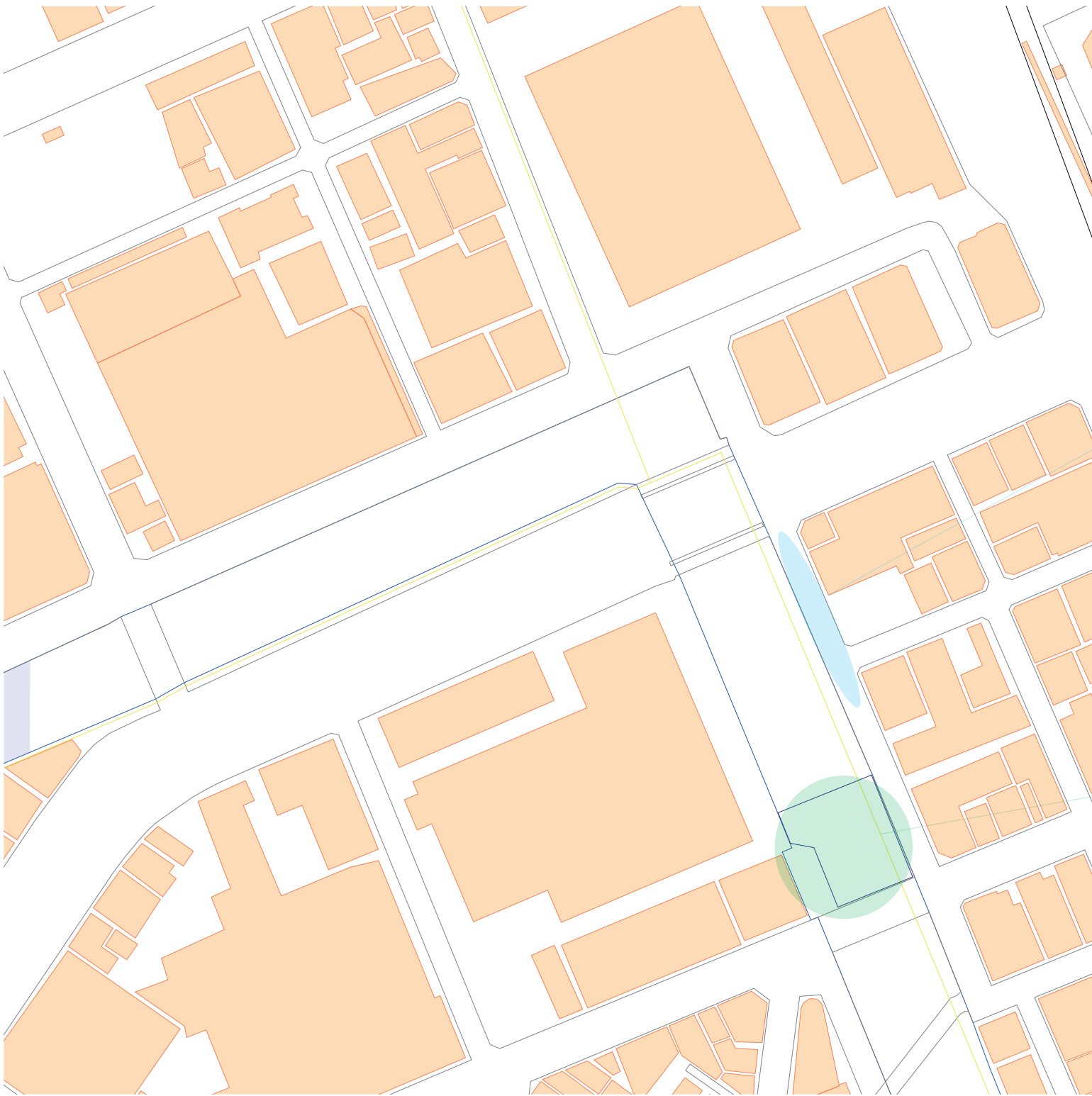


Yokohama Yatai under the



ne Plaza

中野 耀



横浜と屋台

1955年、現在から約60年ほど前に屋台文化が生まれ、その後発展してきた。

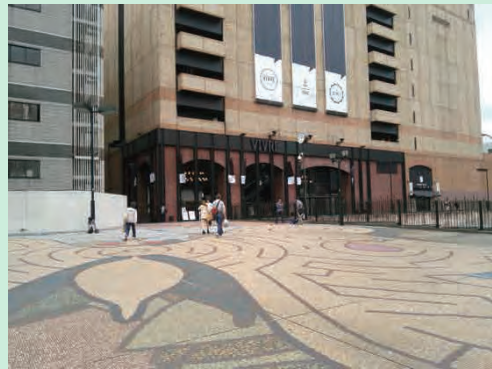
多くの人に親しまれて発展してきた屋台文化であったが、1989年横浜市によって、屋台の自主撤去が促されると、2010年には廃業の誓約書を全店署名させられ、その結果、2016年1月に横浜市によって屋台は全面撤去させられた。

いわゆる「不法占拠」の「違法な構造」であるが、これの下に「寄生」させること

広場の下に設けた屋台の下に設けた磨りガラスが、その実現する。



かつて幸川沿いに並んでいた屋台の場所。親水都市の計画のため、12店舗存在した屋台は完全撤去され、殺風景となっている。

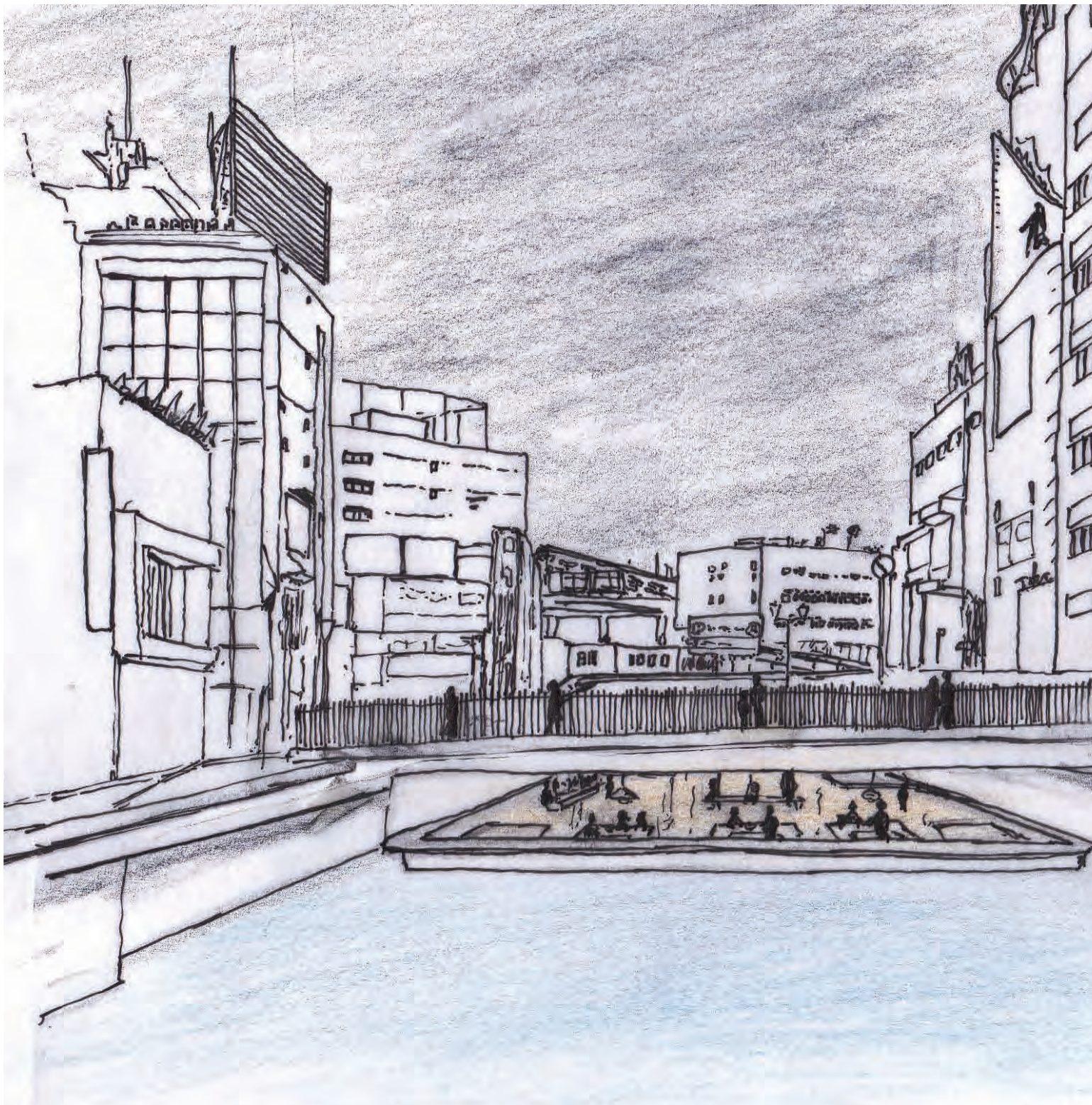


幸川上にある横浜 VIVRE 前の広場は中心性に欠け、親水と語るには程遠い。この広場の下に屋台を寄生させ、広場の一部を磨りガラスにすることで、屋台の光を広場に届ける。

的な屋台文化は、社会的に「弱」を新たに広場という「強い構造」を今回提案する。台空間と、広場空間に穴をあけ屋台文化を再興と、広場の明

屋台文化の年表

- 1955年 戦後復興の過程で西口周辺に屋台が集まる
- 1965年 16店舗まで増加。滞在するようになる
- 1988年 市による強制撤去の方針に市民が反発
- 1989年 市議会により自主撤去を促すことが決定
- 2010年 廃業すの誓約書に全店署名
- 2016年 市によって全て強制撤去

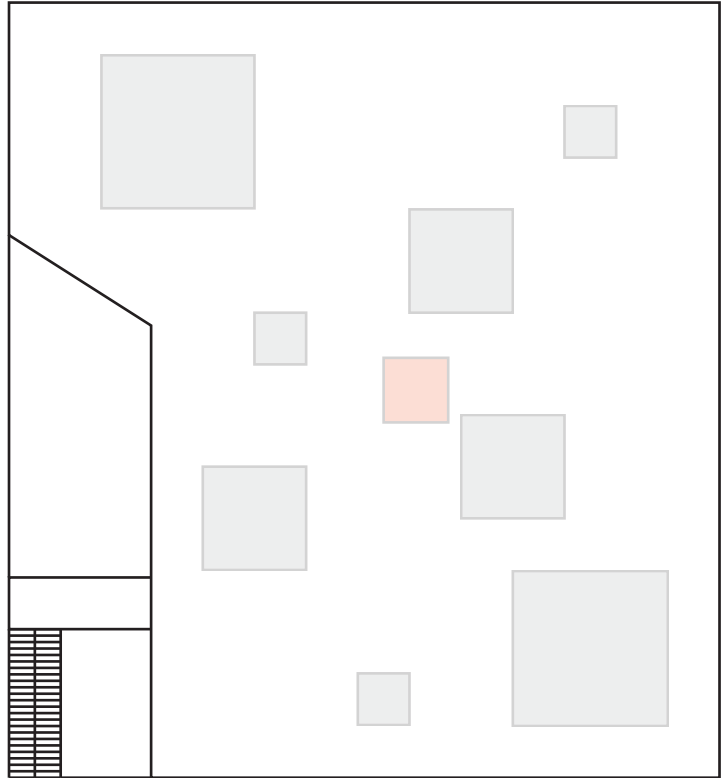


寄生と相乗

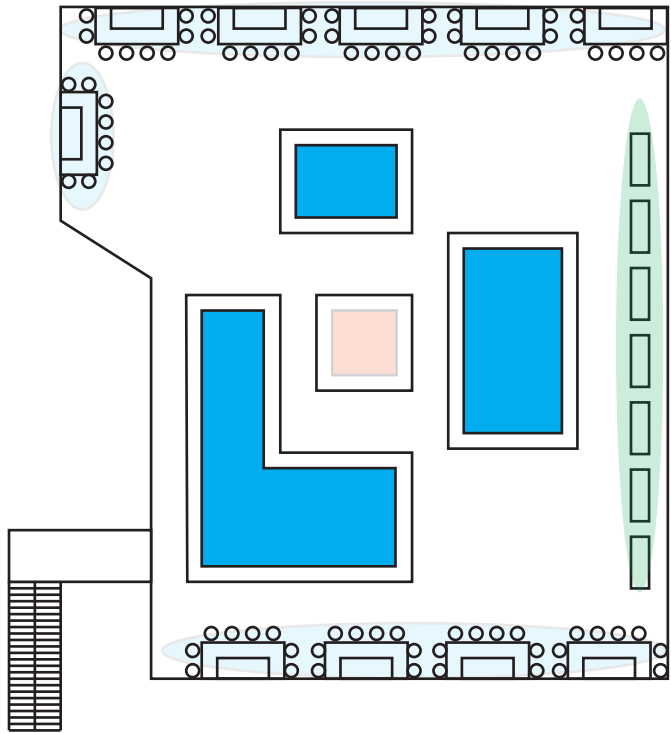
橋上に美術館などが軒を並べた「ポンテヴェッキオ」や壁面を利用してカフェが寄生した「アーヘン市庁舎」のように、「不法占拠」は強い構造にとりつくことで利益を享受しようとして発生する。

かつて幸川沿いに寄生した屋台が橋の下に「寄生」することで、景観への影響を最小限に、雨風を防ぐ屋根を持つ商業空間を形成できる。

広場に穴をあけ、磨台の光を広場に届ける
通行用のみの広場が
るい広場と賑わう商業
完全撤去前の 10 の層
る屋台を平面図右に配



一階平面図

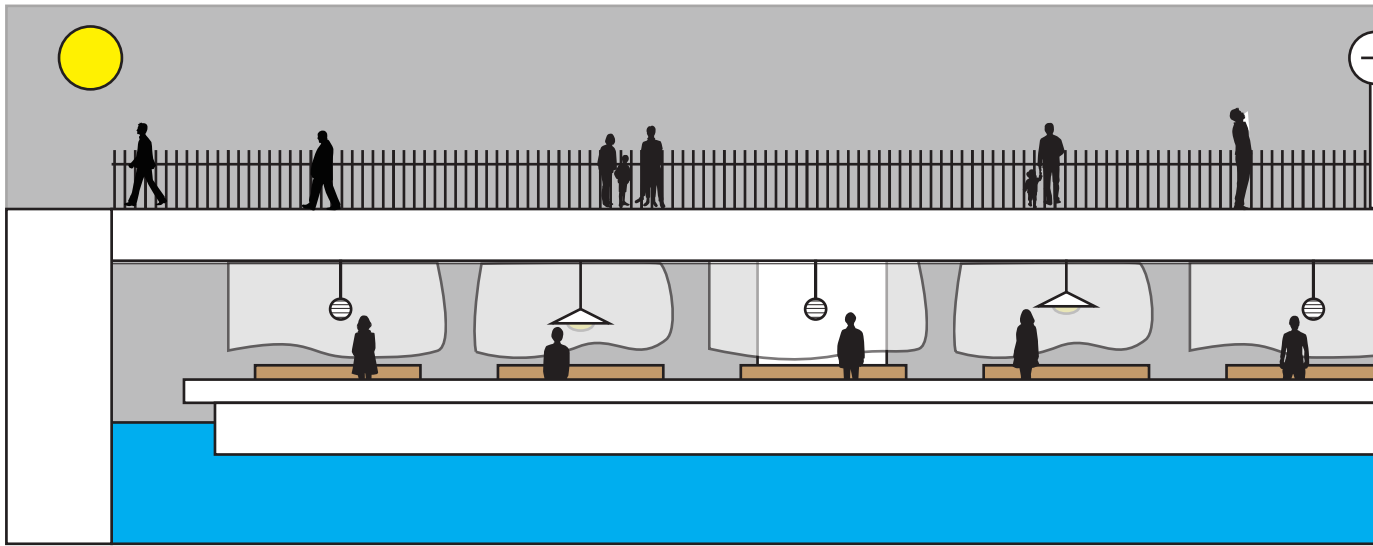


地下平面図

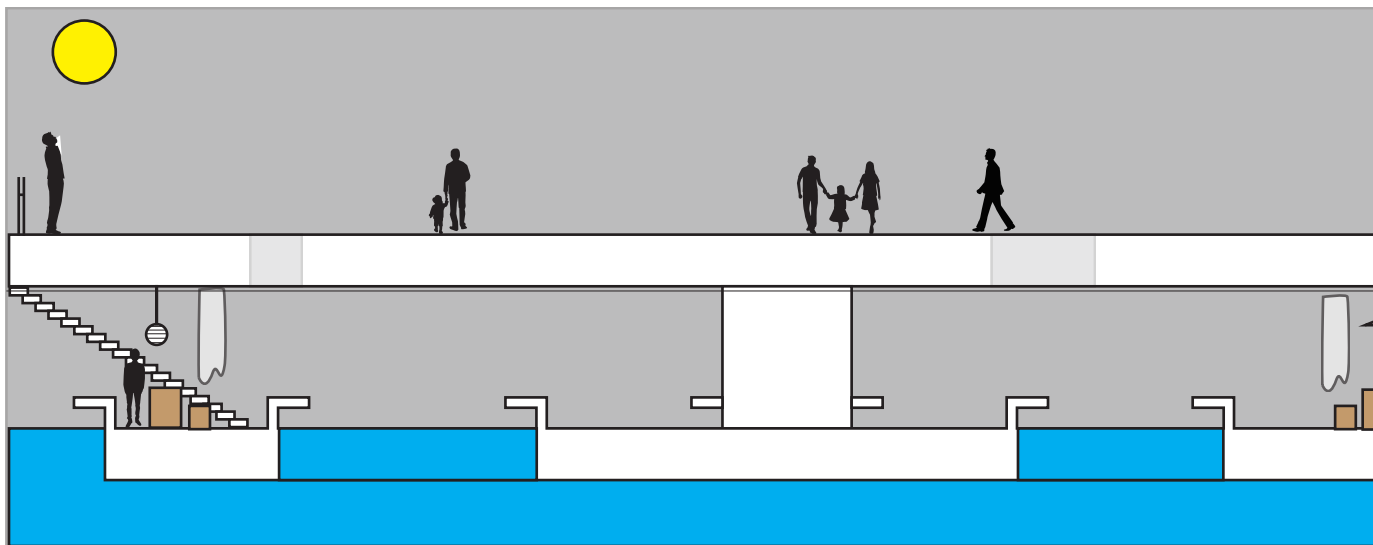
s:1/200

- 水面
- 柱
- 磨りガラス
- 座席屋台
- 販売屋台

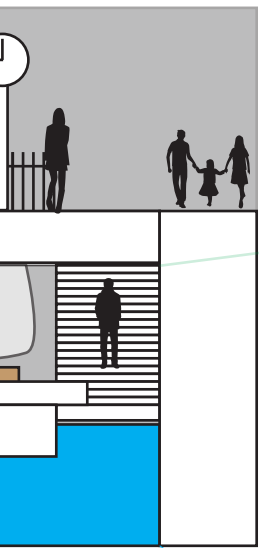
りガラスを埋め込むことで、屋
 ことが出来る。
 、屋台の「寄生」によって、明
 空間、親水空間を生み出す。
 屋台を座席屋台、新規に販売す
 置き、親水広場を設ける。



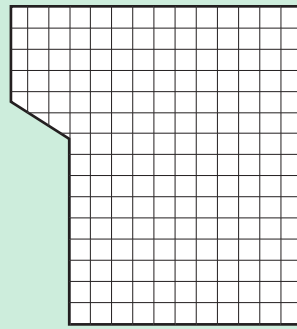
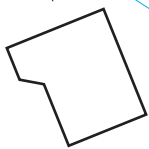
立面图



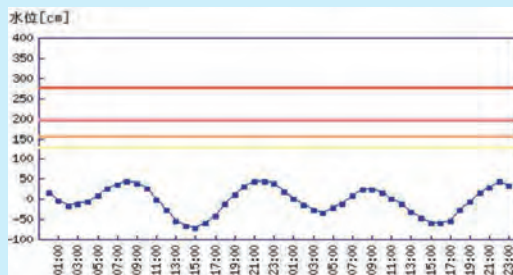
断面图



s:1/100



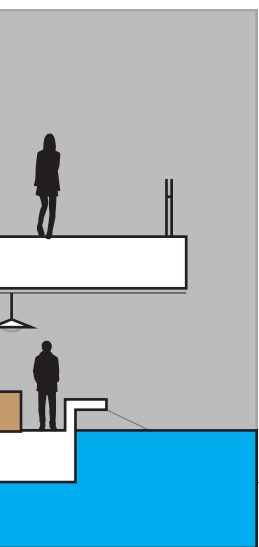
照明器具や、店舗の境界を緩やかに形成する暖簾やカーテンを吊り下げられるよう、クリアなワイヤーを2m間隔でグリッド状に配置し、フリーアドレスのように境界を形成できるようにする。



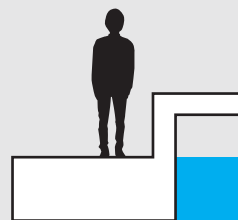
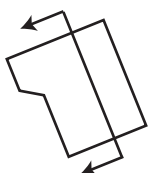
(2016年6月29日横浜市水防災情報のページより引用)

幸川上に形成する浮いた床は、潮の満ち引きによって天井高が2.3~3.3mの間で変化する。

階段を下りた先のスロープは水量変化で角度を変え、高さの変化する空間は来るたびに新しい体験を生む。



s:1/100



水面との境界に逆L字型の物体をつけることで、景観を損ねずに水の浸入を防ぎ、椅子としての利用も可能にする。

MARUNOUCHI HYAKUSHAKU TERRACE

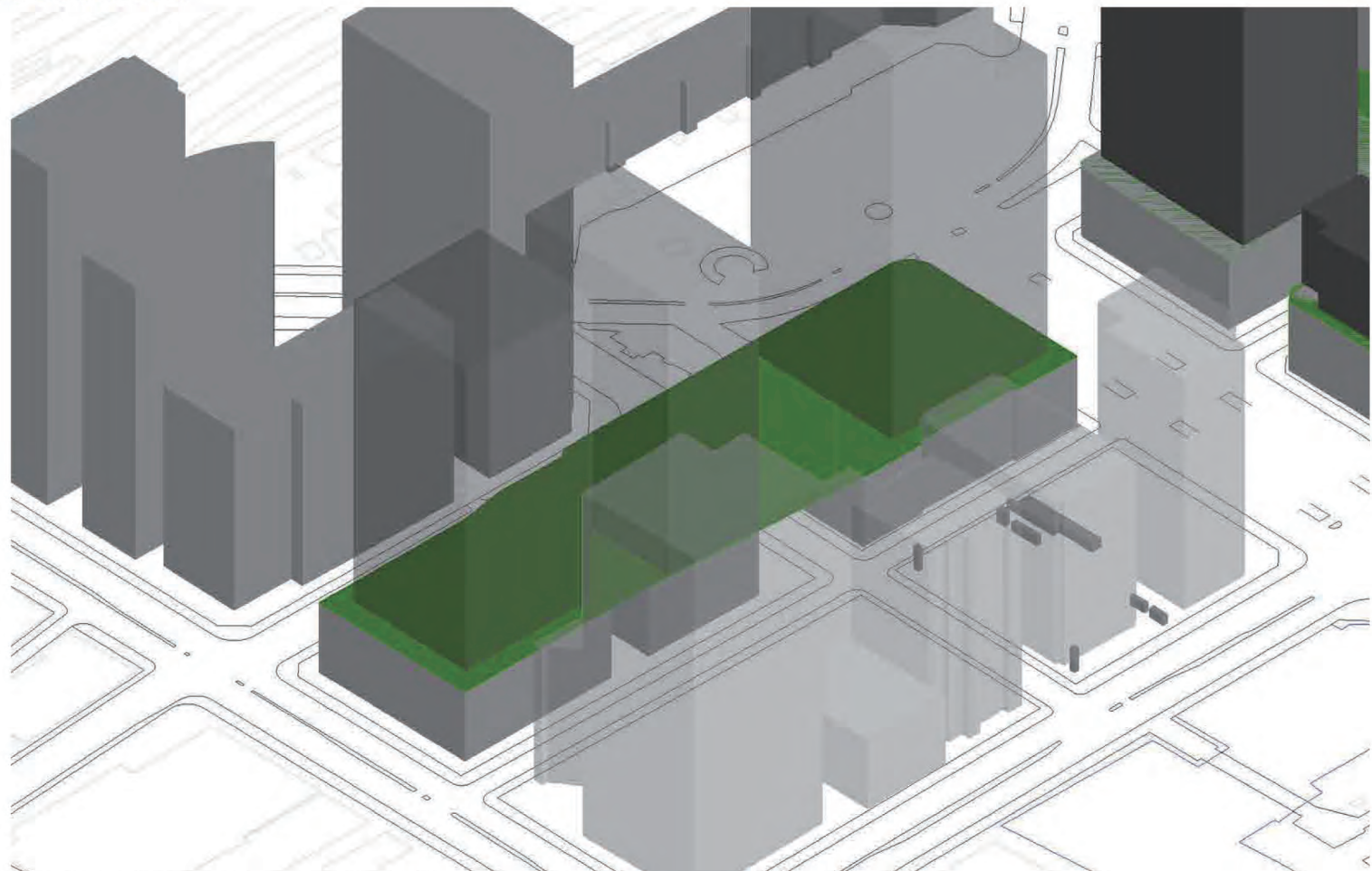
HISTORY



一丁紐育：百尺規制によるスカイライン

現在：高さ百尺でセットバック

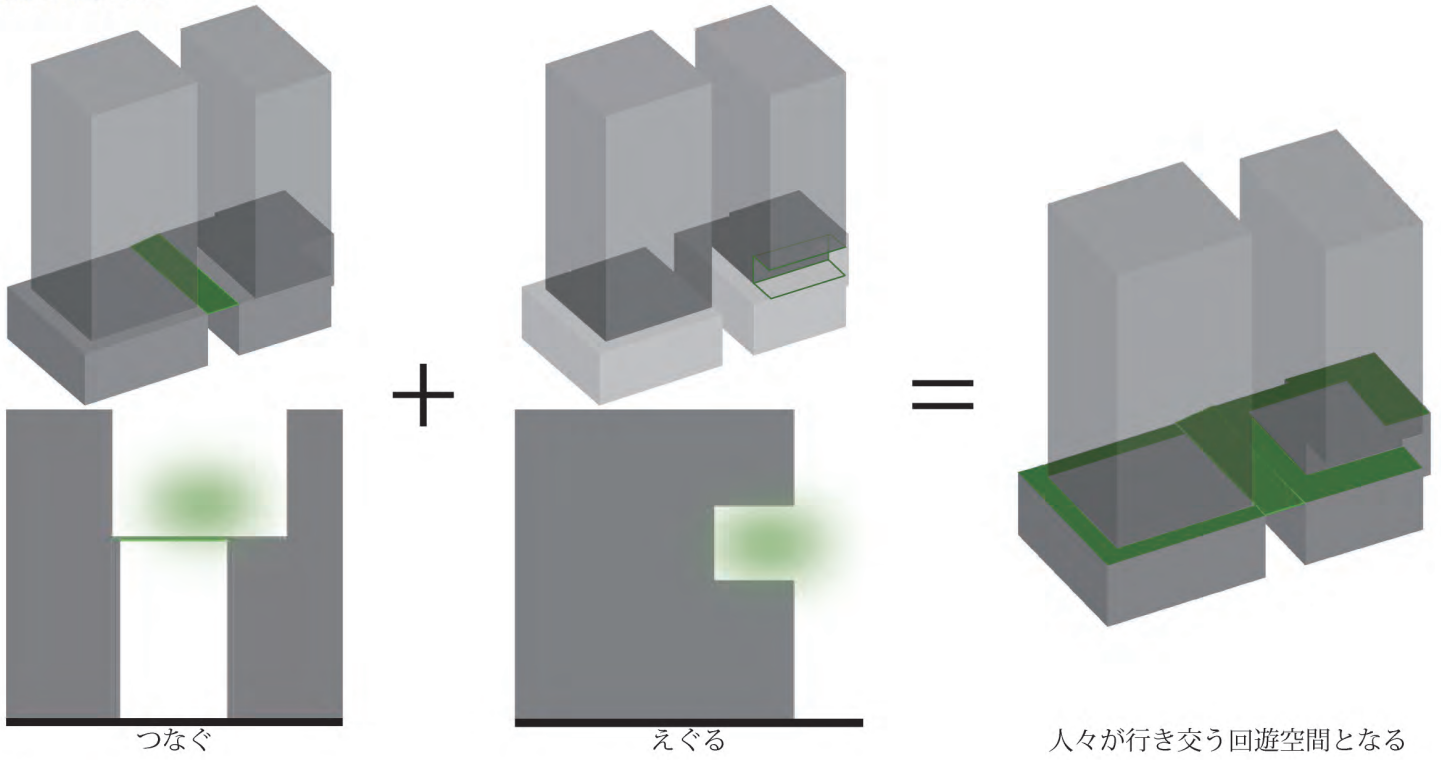
CONCEPT



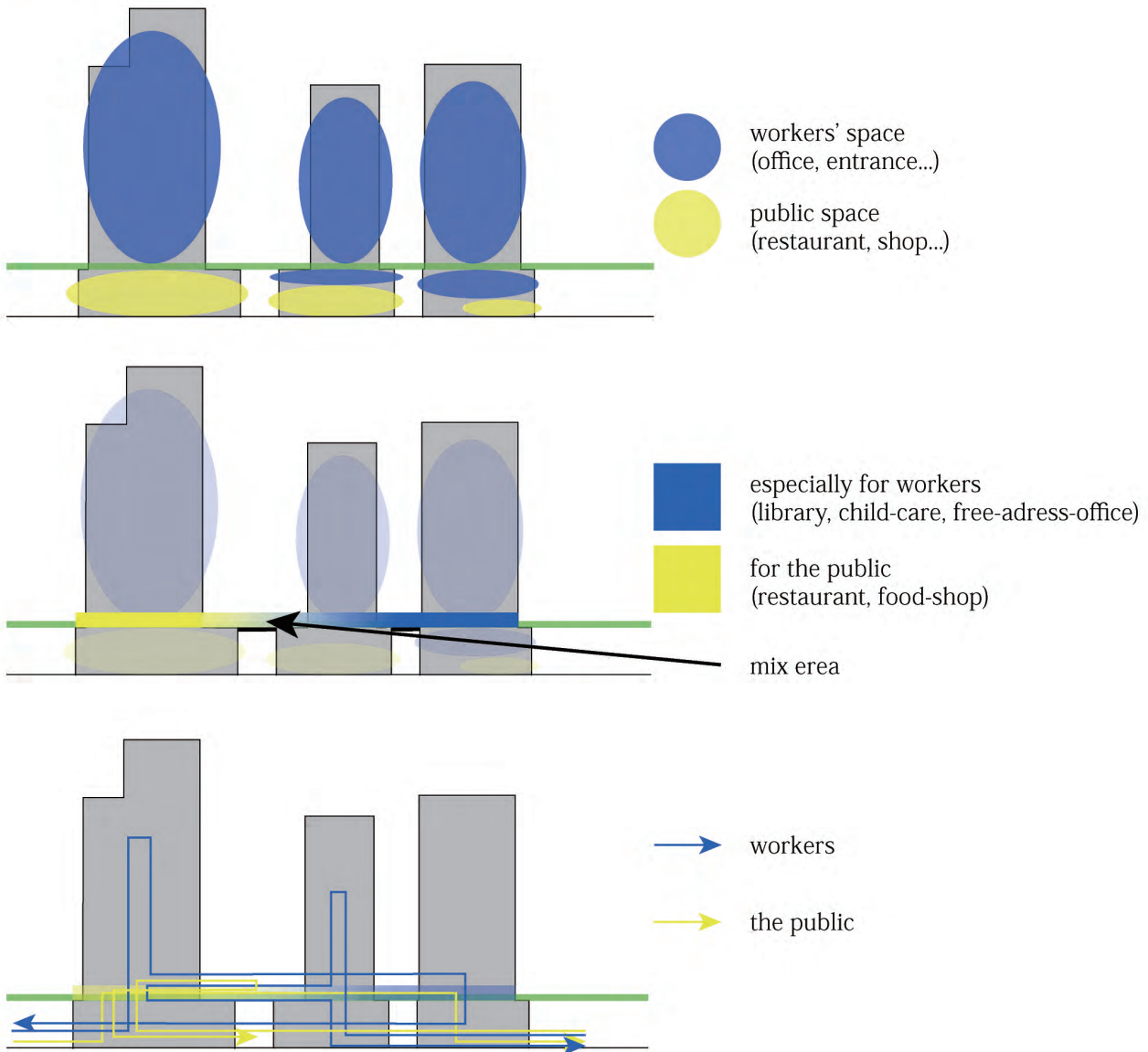
高さ百尺でビルを横断するテラス空間が憩いの場となる

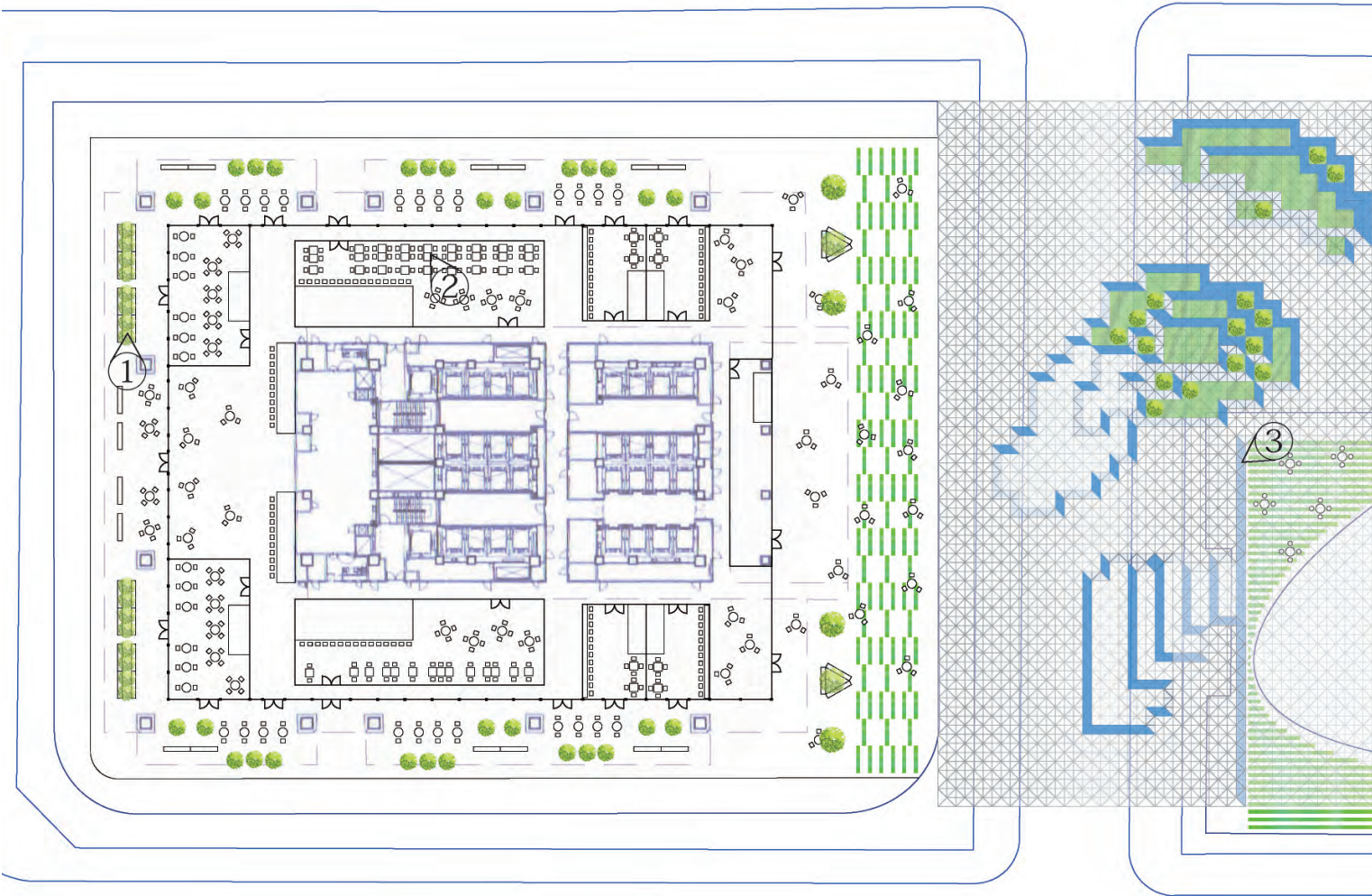
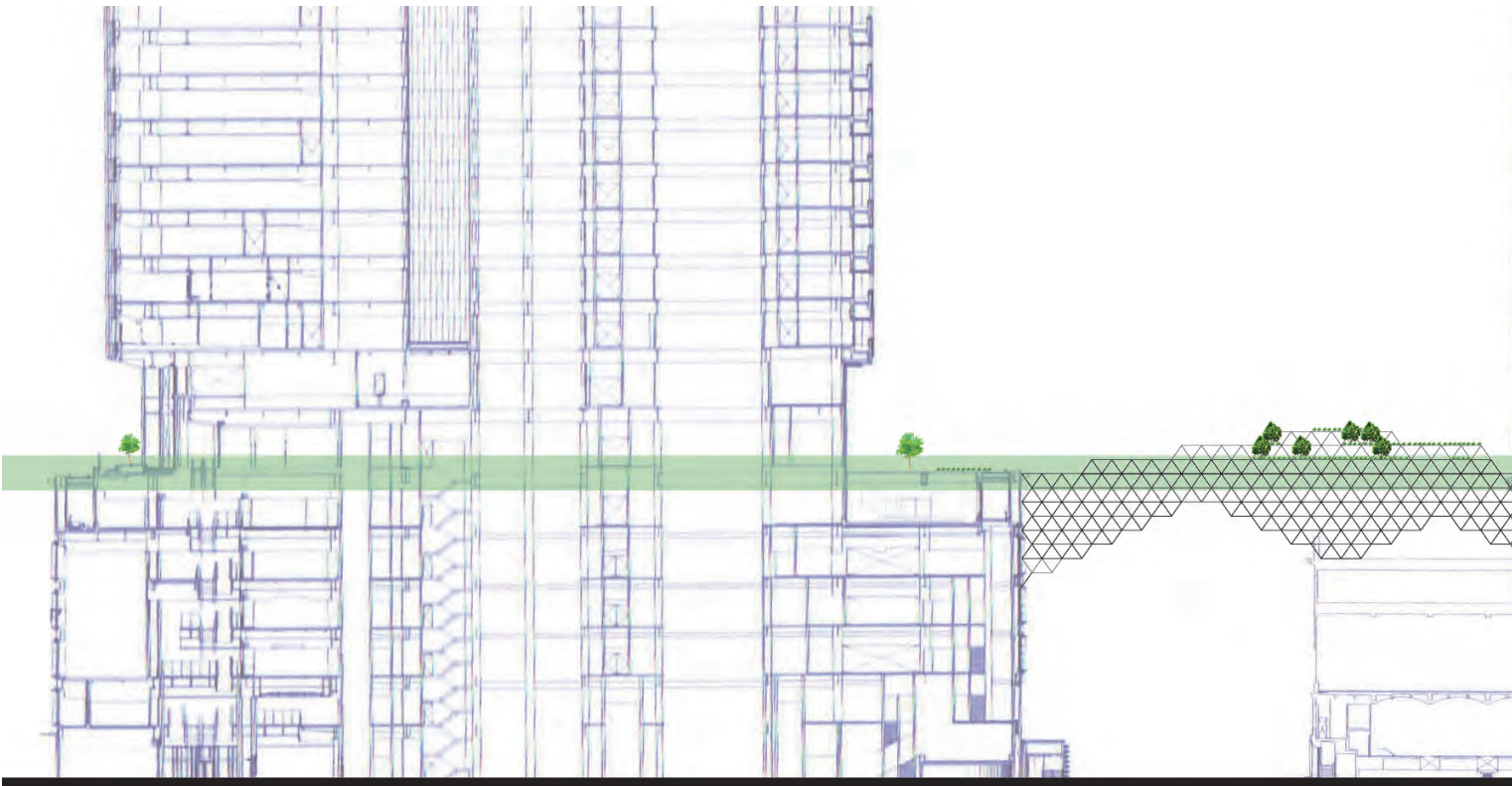
田端 祥太

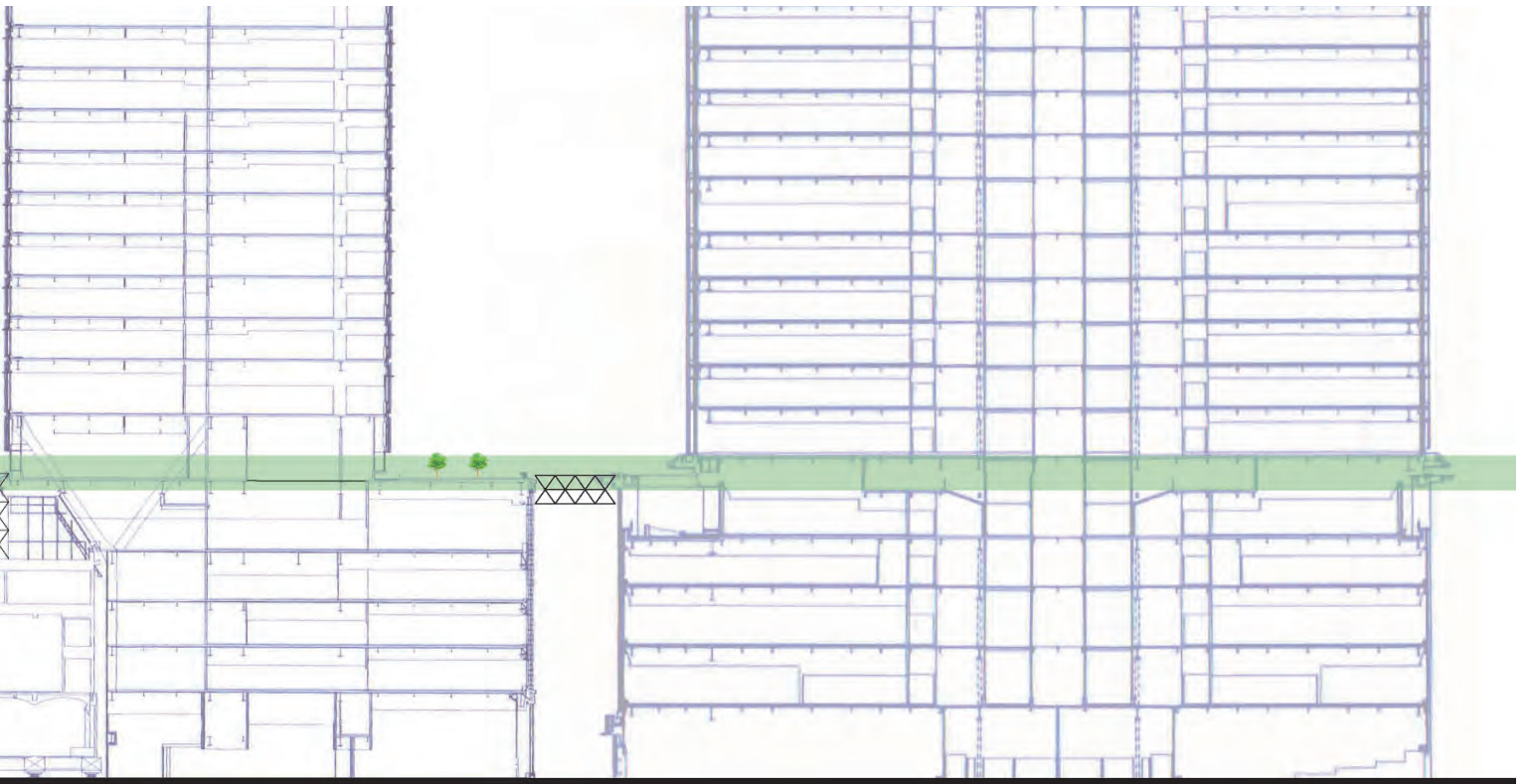
METHOD



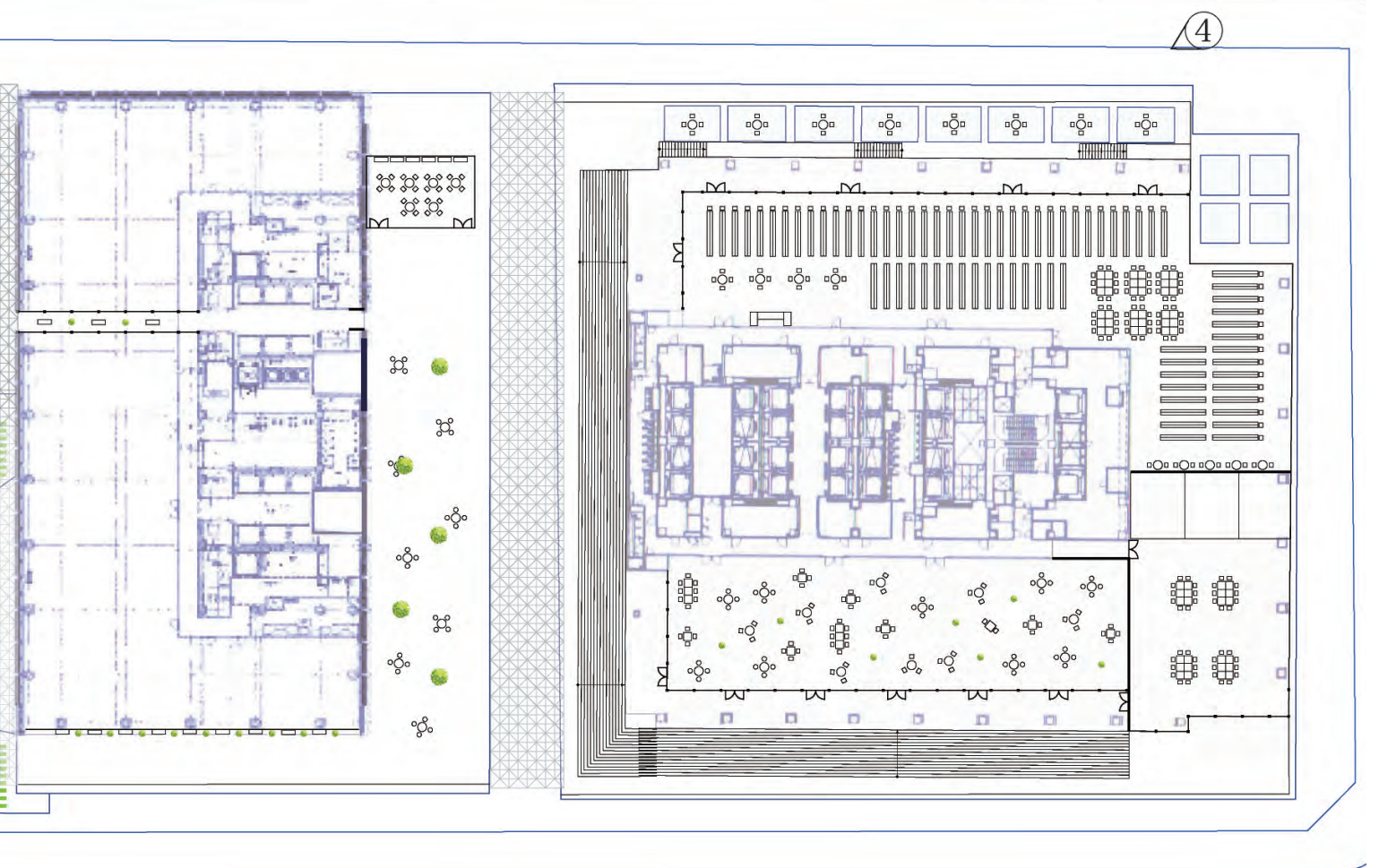
DAIAGRAM







SECTION 1:1000

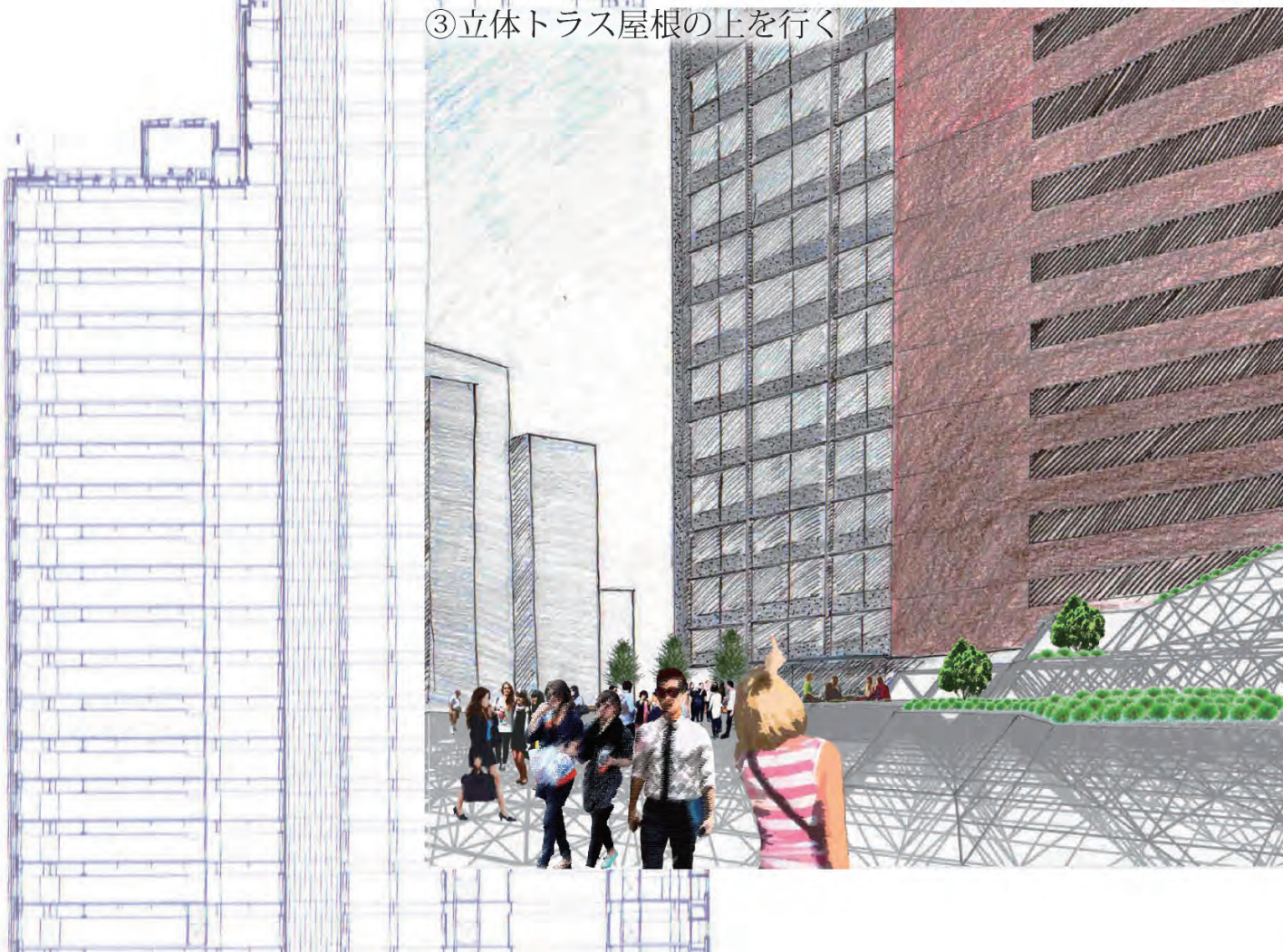


PLAN 1:1000

①回遊スペースにて皇居方向を望む



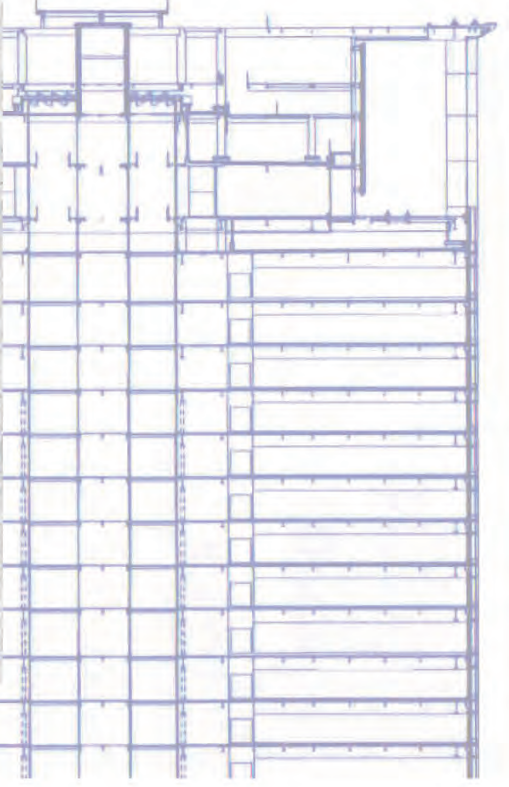
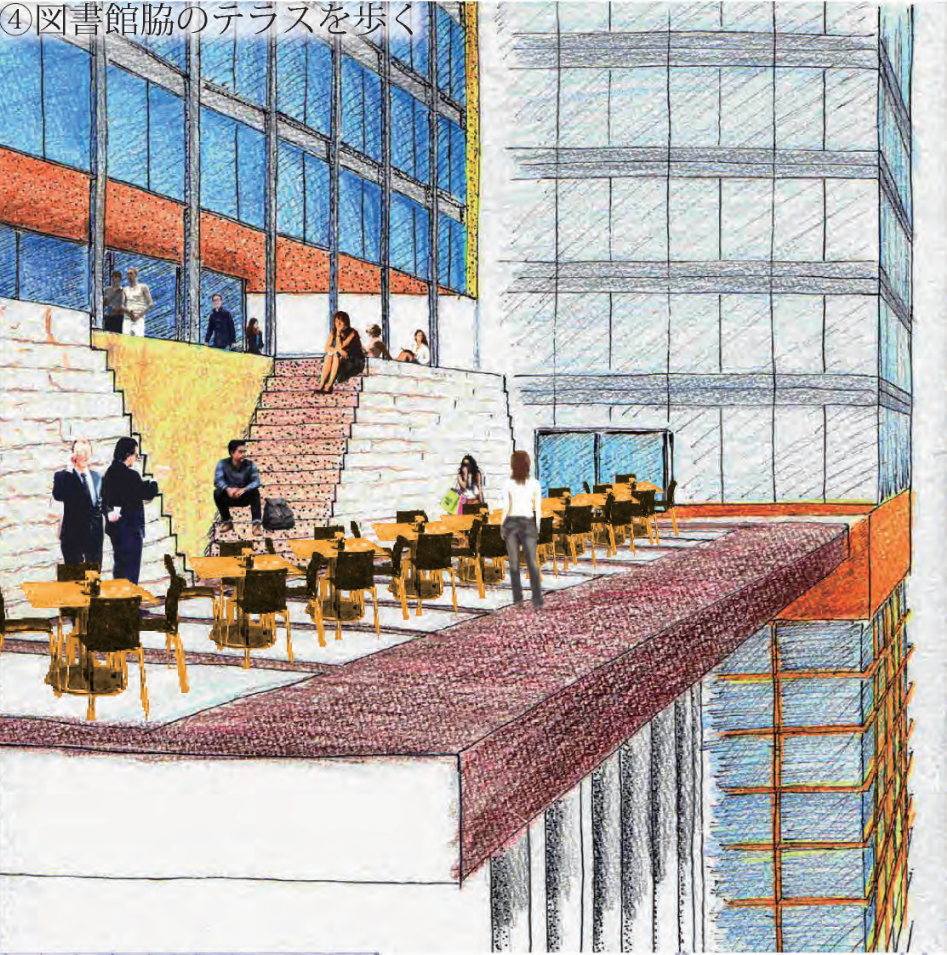
③立体トラス屋根の上に行く



② レストランから外を見る



④ 図書館脇のテラスを歩く



サン・マリア・デル・フィオーレンティ
ジェリ教会
1565, イタリア
306年、ディオクレティアヌス帝により建設された大聖堂の跡地にミケランジェロが設計。後継ある聖堂のうち、アピスタラムが複製。アピスタラムが複製。ピラミッドの形が複製。ピラミッドの形が複製。ピラミッドの形が複製。複製はそのまま。(shirami)

形式 十字空間の再利用

「被る」
; 素材 / 形状
▶ 素材感, Materiality, 質感
▶ 形, Idea, 意味, 表象

2016 年度加藤耕一スタジオ
メンバー

主宰者 /
加藤耕一 東京大学准教授

特別講師 /
杉本訓祥 横浜国大准教授
小見山陽介
石原隆裕

スタジオ参加者 (学部 4 年) /
田端祥太 中野耀
藤原亮 松田涼
新谷健太郎 中塚絢太

TA / 泉勇佑

Caixa Forum/
ヘルツォーク&ド・ムロン
2008, スペイン
レンガの壁を保持したまま新築を施す。窓のコンクリートで補強し、壁を浮かせている。変容例であったものが、実用化として複製された。(shirami)

素材 煉瓦壁の質感を活かしたデザイン

元の窓部分はレンガ窓で、煉瓦は細い溝になっている。ヘルツォーク&ド・ムロンの複製は存在。窓部分をコンクリートで補強し、壁を浮かせている。変容例であったものが、実用化として複製された。(shirami)

「取り込む」
; 権威 / 保護
▶ 構造的一体化による強い構造の表現
▶ 権威, 象徴, 伝統, 歴史の表現

権威 神宮を表面に露く

Le Fresnoy National Studio
for Contemporary Arts
Renzo Piano, 1997, France
1920年代の建物を、ガラスとコンクリートで補強し、煉瓦の壁を保持したまま新築を施す。窓のコンクリートで補強し、壁を浮かせている。変容例であったものが、実用化として複製された。(shirami)

保護 屋根の上の屋根による中間層

Kulturzentrum Witten Haus/
Busse Klapp, 1996, ドイツ
1470年代に建てられた石造の第二次世界大戦の被害を受け壊壊となった。石造の壁を保持し、コンクリートで補強し、煉瓦の壁を浮かせている。変容例であったものが、実用化として複製された。(shirami)

堅穴 石壁とガラスの壁面の共存

「充填する」
; 洞穴 / 堅穴
▶ もともと空間がある
▶ 屋根をかけて空間を作る。壁の素材感

Le Vialac des Arts,
1995, フランス
1850年に建てられたグスタフ・グロエの建築。1995年にリノベーションを行った。アトリエ・ショップなどに改装される。煉瓦の壁を保持したまま新築を施す。窓のコンクリートで補強し、壁を浮かせている。変容例であったものが、実用化として複製された。(shirami)

洞穴 高架下空間へのフレームの挿入

九龍城市
1993, 香港
もとはる密集での集合住宅が、自然発生的に高層ビルが林立する住宅の上に積み上げ、結果的に14階建ての建物へと変化した。(shirami)

増床 積みあがる狭小住宅

ボルターニグラ,
2007, ドイツ
1860年から2000年にかけてローマ建築のスタイルで建てられた教会。増築によって既存の建物と増築部分とが融合して建ち上った。増築部分の増築によってその建物が更新された。(shirami)

増積 市門の教会への転用

増幅 増築による様式の混在

アーヘン大聖堂,
786, ドイツ
786年にカール大帝がアーヘンの大聖堂を建設した。その後2000年にかけて増築されたため、様々な様式が混在している。(shirami)

増幅 増築による様式の混在